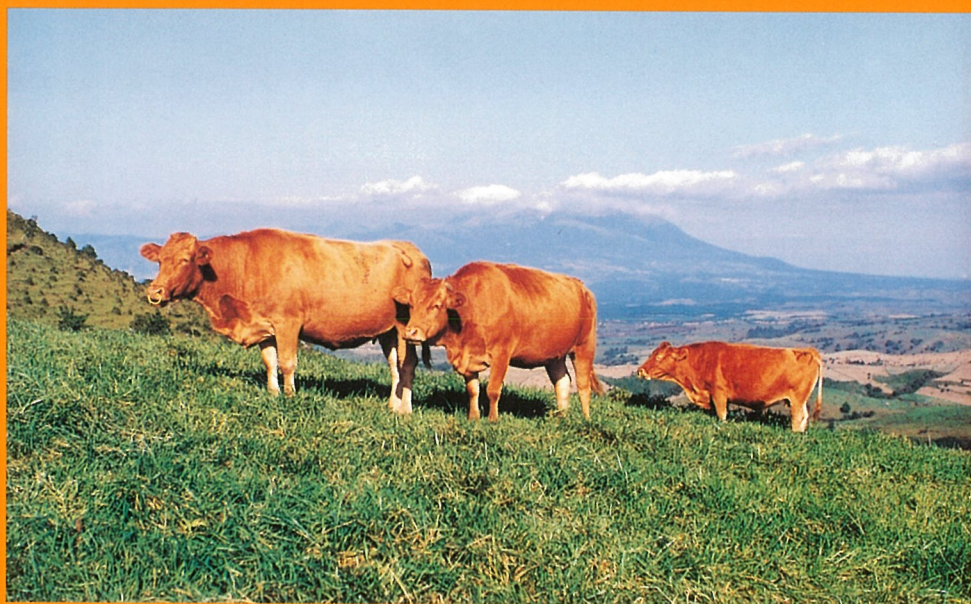


あか牛

No.56(春期号)

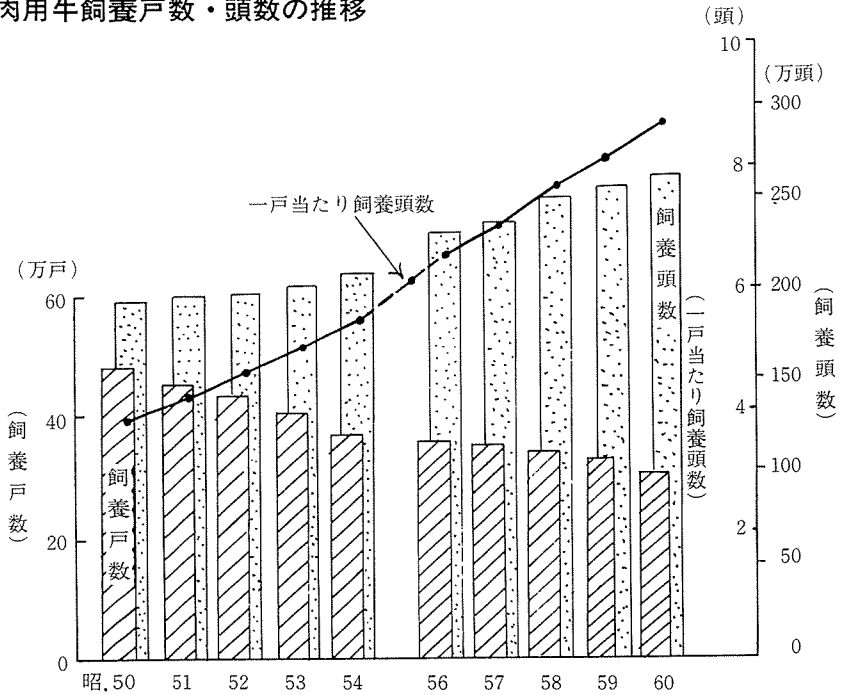


春風をうけて

1986.3

社団法人日本あか牛登録協会

◎ 肉用牛飼養戸数・頭数の推移



区 分		40年	45	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
飼 養 戸 数 (千 戸)		1,435	902	474	450	424	402	381	364	353	340	328	315	300
飼 養 頭 数	総 数 (千 頭)	1,886	1,789	1,857	1,912	1,987	2,030	2,083	2,157	2,281	2,382	2,492	2,572	2,587
	肉専用種(＼)	—	1,633	1,382	1,427	1,455	1,464	1,454	1,465	1,478	1,529	1,606	1,658	1,646
	うち2才以上雌牛(＼)	919	794	609	645	642	632	623	619	633	643	671	678	665
	乳用種(＼)	—	156	476	485	531	566	626	692	803	853	886	914	941
1戸当たり飼養頭数(頭)		1.3	2.0	3.9	4.2	4.7	5.0	5.5	5.9	6.5	7.0	7.6	8.2	8.7

資料：「畜産統計」

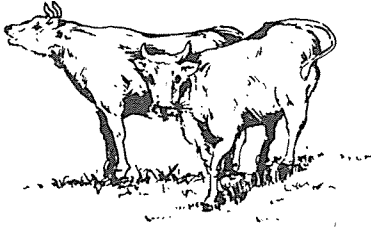
(注)：1. 48年以降沖縄を含む

2. 55年値は予察調査であり、過去の数値と連続しない。

3. 乳廃牛を含んでいない。

あ か 牛

(第56号)



1986・3

目 次

- 牛肉消費行動の影響要因分析……………九州大学農学部 甲斐 諭……2
- 褐毛和種の肥育…九州農試家畜第一研究室…寺田隆慶・住尾善彦 ……14
(* 熊本県畜産課)
- 支部だより(宮城県のあか牛の現況と課題)…宮城県支部 松永 剛……20
- 会 報……………25
- 子牛市況……………46

牛肉消費行動の影響要因分析

九州大学農学部

甲斐 諭

1. 課題と方法

肉用牛生産は、土地利用型農業を目差して長期的、総合的な振興と合理化を図っていく必要があり、国際競争力を念頭に置いた経営体質の強化を推進していかなければならない。とくに、粗飼料給与率の向上による牛肉のコストダウンが緊急の課題であることにちがいはない。

しかし、需要の変化に即した生産性向上を図っていくためには、消費者のニーズを適確に把握しておくことが重要で、アンケート調査により消費者の牛肉消費行動を分析し、今後の牛肉生産の方向を明らかにすることは有意義なことである。また、牛肉輸入自由化に対して、消費者はどのように考えているのかを分析し、生産者と消費者の連帯の可能性を検討していくべきである〔1〕

小稿は「牛肉の消費動向アンケート調査」で得られたデータを基にして、①消費者の牛肉購買消費動向が地区別、年齢階層別、所得階層別に異なっているのは否か〔2〕〔3〕〔4〕、②あか牛の牛肉購入経験者とその他の人との間に牛肉消費行動について相違があるのかどうか〔5〕、③消費者の牛肉輸入自由化に対する意向はどのようなものかについて分析し〔6〕、④消費者の牛肉消費意向に対してどのような要因が影響しているのかを分析して、今後のあか牛の生産方向について考察したものである。

アンケート調査は、九州地区、関東地区の2か所で、主に主婦を対象に実施した。九州地区の調査は、昭和60年9月8日、福岡スポーツセンターで開催された九州各県物産展会場に来場した主婦を対象に実施した。また、関東地区の調査は、昭和60年9月17～18日、関東地区食肉小売店及びスーパーに来店した主婦を対象に、さらに、昭和60年11月16日～18日、東京都晴海国際見本市会場（全国農林水産祭）に来場した主婦を対象に実施した。分析対象人数は171人で

ある。

社会調査データには回答もれ、回答拒否などがあり、不完全データを取扱わなければならない場合が多い。本アンケート調査でも、年齢や所得等の項目において回答もれが生じているが、これらの欠損値については、特定項目の分析について欠損値を含むケースは除去するという方法で処理した。

2. 地区別年齢階層別牛肉消費行動の分析

地区はアンケート調査地に基づき、九州、関東の2地区とした。年齢階層は20歳代から60歳以上まで5階層に分類した。

(1) 最も好きな肉と最も多く購入する肉

表2-1に、肉類の中で最も好きな肉を示す。九州では91.7%の人が最も牛肉を好み、関東では74.1%の人がそうである。関東は、九州に比較して鶏肉、豚肉を最も好きな肉と答えた人が多い。牛肉の嗜好性は、西高東低といえよう〔5〕〔10〕。その傾向は、統計的にも証明できる。表の注の地区別クロス表分析の有意率は7.06%で、地区と好きな肉類との間には、関連性が強いと判断される。

しかし、年齢階層別にみると若年層は牛肉を好きだとする者が少なく、60歳以上に多いように見えるものの、統計的には、明白な関連性は認められない。

20歳代に豚肉を最も好きだとする者も20%いるが、年齢と所得には関係があるので、20歳代の豚肉嗜好は低所得に起因するものではないかと思われる。

表2-2の肉類の中で家庭で最も多く購入する肉を見ると、九州では牛肉が

表2-1 肉類の中で最も好きな肉

(単位：人、%)

	牛 肉	鶏 肉	豚 肉	合 計
九 州	33 91.7	1 2.8	2 5.6	36 21.1
関 東	100 74.1	19 14.1	16 11.9	135 78.9
合 計	133 77.8	20 11.7	18 10.5	171 100.0
20 歳 代	15 75.0	1 5.0	4 20.0	20 11.8
30 歳 代	44 78.6	5 8.9	7 12.5	56 32.9
40 歳 代	31 70.5	9 20.5	4 9.1	44 25.9
50 歳 代	25 83.3	2 6.7	3 10.0	30 17.6
60歳以上	17 85.0	3 15.0	0 0.0	20 11.8
合 計	132 77.6	20 11.8	18 10.6	170 100.0

注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。
地区別のカイ2乗値=5.30、有意率=7.06%、
年齢階層別のカイ2乗値=9.49、有意率=30.23%。

表2-2 家庭で最も多く購入する肉

(単位：人、%)

	牛肉	鶏肉	豚肉	合計
九州	20 57.1	7 20.0	8 22.9	35 20.6
関東	32 23.7	76 56.3	27 20.0	135 79.4
合計	52 30.6	83 48.8	35 20.6	170 100.0
20歳代	6 30.0	9 45.0	5 25.0	20 11.8
30歳代	9 16.1	36 64.3	11 19.6	56 33.1
40歳代	13 29.5	22 50.0	9 20.5	44 26.0
50歳代	12 40.0	10 33.3	8 26.7	30 17.8
60歳以上	11 57.9	6 31.6	2 10.5	19 11.2
合計	51 30.2	83 49.1	35 20.7	169 100.0

注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。
地区別のカイ2乗値=17.77、有意率=0.01%、
年齢階層別のカイ2乗値=16.58、有意率=3.48%。

多く、関東では鶏肉が多い。しかも、表注の地区別分析の有意率は0.01%と非常に有意性が高く、牛肉消費量についても強い西高東低傾向が認められる。

年齢階層別にみると30歳代、40歳代では鶏肉の消費量が最も多く、50歳代以上になると牛肉の消費量が最も多くなるようである。表注の有意率も3.48%と有意である。

表2-1、表2-2を総括すると、牛肉に対しては各地区各世代とも強い潜在需要があるが、実際には食習慣のちがいに、

表2-3 牛肉の購入頻度

(単位：人、%)

	毎日	2日毎	3日毎	5日毎	7日毎	10日毎	20日毎	30日毎	合計
九州	0 0.0	5 13.9	12 33.3	11 30.6	4 11.1	4 11.1	0 0.0	0 0.0	36 21.1
関東	2 1.5	4 3.0	23 17.0	17 12.6	38 28.1	26 19.3	20 14.8	5 3.7	135 78.9
合計	2 1.2	9 5.3	35 20.5	28 16.4	42 24.6	30 17.5	20 11.7	5 2.9	171 100.0
20歳代	0 0.0	2 10.0	5 25.0	2 10.0	4 20.0	5 25.0	2 10.0	0 0.0	20 11.8
30歳代	0 0.0	3 5.4	8 14.3	9 16.1	17 30.4	9 16.1	6 10.7	4 7.1	56 32.9
40歳代	0 0.0	2 4.5	11 25.0	5 11.4	8 18.2	14 31.8	4 9.1	0 0.0	44 25.9
50歳代	2 6.7	2 6.7	7 23.3	5 16.7	7 23.3	1 3.3	5 16.7	1 3.3	30 17.6
60歳以上	0 0.0	0 0.0	4 20.0	7 35.0	6 30.0	1 5.0	2 10.0	0 0.0	20 11.8
合計	2 1.2	9 5.3	35 20.6	28 16.5	42 24.7	30 17.6	19 11.2	5 2.9	170 100.0

注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。
地区別のカイ2乗値=27.37 有意率=0.03%、年齢階層別のカイ2乗値=38.35、有意率=9.19%。

牛肉消費量は西高東低となり、また所得水準を反映して若い世代では実際の購入が少なく、年齢の上昇と共に購入が増加する傾向が認められる。

(2) 牛肉の消費行動

表2-3に、牛肉の購入頻度を示す。九州では3日毎、関東では7日毎が多い。この購入頻度は、昨年調査も同様に九州が3日毎、関東が7日毎であり、統計的にも有意であるので(有意率=0.03%)、西に行くほど購入頻度が高いといえよう。全体的には7日毎が多い。

表2-4 牛肉の1回毎の購入量

(単位：人、%)

	100g	200g	300g	400g	500g	700g	1kg以上	合計
九州	0 0.0	4 11.1	11 30.6	6 16.7	13 36.1	1 2.8	1 2.8	36 21.1
関東	1 0.7	19 14.1	50 37.0	25 18.5	29 21.5	6 4.4	5 3.7	135 78.9
合計	1 0.6	23 13.5	61 35.7	31 18.1	42 24.6	7 4.1	6 3.5	171 100.0
20歳代	0 0.0	5 25.0	8 40.0	3 15.0	3 15.0	1 5.0	0 0.0	20 11.8
30歳代	0 0.0	9 16.1	22 39.3	9 16.1	14 25.0	2 3.6	0 0.0	56 32.9
40歳代	0 0.0	1 2.3	9 20.5	11 25.0	17 38.6	3 6.8	3 6.8	44 25.9
50歳代	1 3.3	3 10.0	17 56.7	3 10.0	4 13.3	1 3.3	1 3.3	30 17.6
60歳以上	0 0.0	5 25.0	5 25.0	4 20.0	4 20.0	0 0.0	2 10.0	20 11.8
合計	1 0.6	23 13.5	61 35.9	30 17.6	42 24.7	7 4.1	6 3.5	170 100.0

注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。

地区別はカイ2乗値=3.58、有意率=73.34%、年齢階層別のカイ2乗値=37.35、有意率=4.03%。

表2-4に牛肉の1回毎の購入量を示す。全体的には300gが35.7%で多い。九州も関東も同様であり、地区別にちがいはない。

表2-3と表2-4を総括すると、1回毎の購入量は両地区とも300gが多く、ちがいはないが、購入間隔は九州が3日毎、関東は7日毎が最も多いため、消費量に大きな相違があるものと考えられる。

表2-5に牛肉を購入する店を示す。九州では、スーパーと専門店がちょうど50%ずつであるが、関東ではスーパーで購入する人が若干多い(52.7%)。年齢階層別にみると若年ほどスーパーの割合が高く、年齢が進むほど専門店が多

表2-5 牛肉を購入する店

(単位：人、%)

	スーパー	専門店	合計
九州	17 50.0	17 50.0	34 20.9
関東	68 52.7	61 47.3	129 79.1
合計	85 52.1	78 47.9	163 100.0
20歳上	12 60.0	8 40.0	20 12.3
30歳上	29 54.7	24 45.3	53 32.7
40歳上	21 52.5	19 47.5	40 24.7
50歳上	14 46.7	16 53.3	30 18.5
60歳以上	8 42.1	11 57.9	19 11.7
合計	84 51.9	78 48.1	162 100.0

注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。
 地区別のカイ2乗値=0.79、有意率=77.81%、
 年齢階層別のカイ2乗値=1.76、
 有意率=78.0%。

表2-6 ブロック牛肉購入の有無

(単位：人、%)

	有	無	合計
九州	24 66.7	12 33.3	36 21.1
関東	67 49.6	68 50.4	135 78.9
合計	91 53.2	80 46.8	171 100.0
20歳代	10 50.0	10 50.0	20 11.8
30歳代	30 53.6	26 46.4	56 32.9
40歳代	23 52.3	21 47.7	44 25.9
50歳代	16 53.3	14 46.7	30 17.6
60歳以上	11 55.0	9 45.0	20 11.8
合計	90 52.9	80 47.1	170 100.0

注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。
 地区別のカイ2乗値=3.31、有意率=6.87%、
 年齢階層別のカイ2乗値=0.12、
 有意率=99.82%。

くなっている。全体的には、スーパーと専門店がほぼ50%になっている。

表2-6のブロック牛肉購入の有無を見よう。全体的には「有」と答えた人が53.2%と過半数を占めている。九州では66.7%の人が「有」、関東では49.6%が「有」と答え、有意率も6.87%と有意であるので、九州の方が「有」の人が多いことがわかる。年齢階層的には傾向がない。

昭和59年度『農業の動向に関する年次報告』には、食肉の小売段階における改善、合理化を促進することが重要であるとして、「部位別表示の普及等を図りつつ、ブロック肉販売等消費者ニーズの変化に即した販売を行っていくことが重要となっている」と述べている〔11〕。しかし、現状では、特に関東においてブロック牛肉の購入者がやや少なく、流通改善に対する一層の努力が望まれる。

(3) 牛肉価格に対する意向と購入価格

表2-7に牛肉価格に対する意向を示す。全体的には高いと思っている人が73.5%、普通と考えている人が24.1%、安いと思っている人は2.4%である。

表2-7 牛肉価格に対する意向

(単位：人、%)

	高 い	普 通	安 い	合 計
九 州	22 61.1	12 33.3	2 5.6	36 21.1
関 東	103 76.3	30 22.2	2 1.5	135 78.9
合 計	125 73.1	42 24.6	4 2.3	171 100.0
20 歳代	18 90.0	1 5.0	1 5.0	20 11.8
30 歳代	40 71.4	15 26.8	1 1.8	56 32.9
40 歳代	33 75.0	10 22.7	1 2.3	44 25.9
50 歳代	23 76.7	7 23.3	0 0.0	30 17.6
60歳以上	11 55.0	8 40.0	1 5.0	20 11.8
合 計	125 73.5	41 24.1	4 2.4	170 100.0

注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。
 地区別のカイ2乗値=4.34、有意率=11.41%、
 年齢階層別のカイ2乗値=9.06、有意率=33.69%。

牛肉の高価格に対する批判が内外ともに強く、消費者の7割強の人が高いと思っているので、コスト節減による牛肉小売価格の引き下げ努力が望まれる。

地区別にみると関東で高いと
 思っている人の割合が高く、統計的に有意である(有意率11.41%)。年齢階層別にみても、高いと答えた人が20歳代では90%を占めており、60歳以上では55%となっている。ただし、両者の中間層の変動が一定していないため、統計的な有意性は認められなかった(有意率33.69%)。

表2-8 牛肉の100g当たり購入価格

(単位：人、%)

	200円以下	200円台	300円台	400円台	500~700円	700~1,000円	1,000円以上	合 計
九 州	0 0.0	6 16.7	15 41.7	11 30.6	2 5.6	2 5.6	0 0.0	36 21.1
関 東	3 2.2	16 11.9	48 35.6	42 31.1	17 12.6	6 4.4	3 2.2	135 78.9
合 計	3 1.8	22 12.9	63 36.8	53 31.0	19 11.1	8 4.7	3 1.8	171 100.0
20 歳代	0 0.0	2 10.0	11 55.0	4 20.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0	20 11.8
30 歳代	2 3.6	11 19.6	17 30.4	21 37.5	2 3.6	2 3.6	1 1.8	56 32.9
40 歳代	0 0.0	6 13.6	16 36.4	12 27.3	7 15.9	3 6.8	0 0.0	44 25.9
50 歳代	0 0.0	2 6.7	11 36.7	9 30.0	5 16.7	2 6.7	1 3.3	30 17.6
60歳以上	1 5.0	1 5.0	7 35.0	7 35.0	2 10.0	1 5.0	1 5.0	20 11.8
合 計	3 1.8	22 12.9	62 36.5	53 31.2	19 11.2	8 4.7	3 1.8	170 100.0

注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。
 地区別はカイ2乗値=3.74、有意率=71.12%、年齢階層別のカイ2乗値=21.54、有意率=60.66%。

しかし、50歳以下層では70%強の人が高いと考えている。

表2-8に牛肉の100g当たり購入価格を示す。全体的には、300円台の牛肉が最も多く消費されている(36.8%)。九州は特にその傾向が強く、41.7%の人が300円台の牛肉を消費している関東では500~700円の牛肉を購入する人が12.6%おり、関東の方が価格の幅が広い。

年齢階層別にみると、300円台の牛肉を購入する人が20歳代では55%にも達している。60歳以上層では200円以下のものを購入する人から、1,000円以上のものを購入する人まで多彩である。

表2-9 今後の牛肉100g当たり希望価格

(単位：人、%)

	200円以下	200~249円	250~299円	300~349円	350~399円	400~449円	450~500円	500円以上	合計
九州	5 13.9	9 25.0	11 30.6	4 11.1	1 2.8	2 5.6	2 5.6	2 5.6	36 21.2
関東	17 12.7	25 18.7	43 32.1	22 16.4	10 7.5	8 6.0	5 3.7	4 3.0	134 78.8
合計	22 12.9	34 20.0	54 31.8	26 15.3	11 6.5	10 5.9	7 4.1	6 3.5	170 100.0
20歳代	4 21.1	4 21.1	6 31.6	2 10.5	1 5.3	1 5.3	0 0.0	1 5.3	19 11.2
30歳代	11 19.6	13 23.2	17 30.4	6 10.7	1 1.8	4 7.1	2 3.6	2 3.6	56 33.1
40歳代	4 9.1	8 18.2	15 34.1	10 22.7	3 6.8	1 2.3	2 4.5	1 2.3	44 26.0
50歳代	2 6.7	4 13.3	11 36.7	5 16.7	3 10.0	2 6.7	2 6.7	1 3.3	30 17.8
60歳以下	1 5.0	5 25.0	4 20.0	3 15.0	3 15.0	2 10.0	1 5.0	1 5.0	20 11.8
合計	22 13.0	34 20.1	53 31.4	26 15.4	11 6.5	10 5.9	7 4.1	6 3.6	169 100.0

注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。

地区別のカイ2乗値=2.88、有意率=89.61%、年齢階層別のカイ2乗値=18.74、有意率=90.61%。

表2-9に、今後の牛肉100g当たり希望価格を示す。全体的には、250~299円に31.8%が集中し、200~249円に20%が集まっている。300円以下の牛肉を64.7%(=31.8+20.0+12.9)の人が希望していることがわかる。九州では、200~249円の牛肉を25%の人が望んでおり、その割合は関東の18.7%より高い。

年齢階層別にみてもあまり変化はなく、250~299円に集中している。

表2-8と表2-9を総括すると、現在は300円台の牛肉を購入している人が多いが、将来は現在より100~150円安い250~299円の価格を希望している人

が多いので、今後100g当たり100～150円のコストダウンを目標とすべきであろう。

(4) 牛肉購入時の留意事項

表2-10に牛肉の購入時に最も気をつけていることを示す。全体的には、最も多いのが値段の29.2%で、新鮮さの24.6%、やわらかさの12.9%がそれに続いている。

表2-10 牛肉の購入時に最も気をつけていること

(単位：人、%)

	値段	脂肪の 多 少	肉の色	味	やわらか さ	産地	新鮮さ	合計
九州	13 36.1	2 5.6	1 2.8	7 19.4	4 11.1	0 0.0	9 25.0	36 21.1
関東	37 27.4	16 11.9	16 11.9	12 8.9	18 13.3	3 2.2	33 24.4	135 78.9
合計	50 29.2	18 10.5	17 9.9	19 11.1	22 12.9	3 1.8	42 24.6	171 100.0
20歳代	6 30.0	1 5.0	3 15.0	0 0.0	2 10.0	0 0.0	8 40.0	20 11.8
30歳代	14 25.0	7 12.5	6 10.7	10 17.9	5 8.9	0 0.0	14 25.0	56 32.9
40歳代	13 29.5	3 6.8	3 6.8	2 4.5	11 25.0	1 2.3	11 25.0	44 25.9
50歳代	11 36.7	2 6.7	3 10.0	3 10.0	4 13.3	2 6.7	5 16.7	30 17.6
60歳以上	6 30.0	5 25.0	1 5.0	4 20.0	0 0.0	0 0.0	4 20.0	20 11.8
合計	50 29.4	18 10.6	16 9.4	19 11.2	22 12.9	3 1.8	42 24.7	170 100.0

注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。

地区別はカイ2乗値=7.92、有意率=24.38%、年齢階層別のカイ2乗値=32.85、有意率=10.72%。

地区別にみると、九州では値段への関心が36.1%で関東の27.4%より高い。新鮮さと味の関心も九州の方が関東より高い。脂肪の多少、肉の色、やわらかさ、産地への関心は関東の方が高い。

年齢階層別にみると脂肪の多少は20歳代が5%であるのに対して、60歳以上層では25.0%に達している。逆に、新鮮さは、20歳代が40%であるのに対して60歳代では20%になっているにすぎない。

表2-11に好きな牛肉の色を示す。九州、関東とも鮮紅色を好む人が6割強となっている。

年齢階層別では、鮮紅色を好む人が20歳代では80%いるが、60歳代では40%

表2-11 好きな牛肉の色

(単位：人、%)

	淡い色	鮮紅色	濃い色	合計
九州	4 11.1	24 66.7	8 22.2	36 21.1
関東	34 25.2	86 63.7	15 11.1	135 78.9
合計	38 22.2	110 64.3	23 13.5	171 100.0
20歳代	2 10.0	16 80.0	2 10.0	20 11.8
30歳代	15 26.8	37 66.1	4 7.1	56 32.9
40歳代	9 20.5	29 65.9	6 13.6	44 25.9
50歳代	6 20.0	19 63.3	5 16.7	30 17.6
60歳以上	6 30.0	8 40.0	6 30.0	20 11.8
合計	38 22.4	109 64.1	23 13.5	170 100.0

注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。
 地区別のカイ2乗値=5.18、有意率=7.50%、
 年齢階層別のカイ2乗値=11.29、有意率=18.60%。

表2-12 牛肉を買う理由

(単位：人、%)

	おいしい	栄養がある	値段が てごろ	合計
九州	29 80.6	7 19.4	0 0.0	36 21.3
関東	111 83.5	19 14.3	3 2.3	133 78.7
合計	140 82.8	26 15.4	3 1.8	169 100.0
20歳代	17 85.0	2 10.0	1 5.0	20 11.9
30歳代	48 85.7	7 12.5	1 1.8	56 33.3
40歳代	34 79.1	8 18.6	1 2.3	43 25.6
50歳代	25 83.3	5 16.7	0 0.0	30 17.9
60歳以上	15 78.9	4 21.1	0 0.0	19 11.3
合計	139 82.7	26 15.5	3 1.8	168 100.0

注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。
 地区別のカイ2乗値=1.33、有意率=51.40%、
 年齢階層別のカイ2乗値=3.67、有意率=88.58%。

に低下し、逆に、淡い色を好む人が10%から30%に向上している。

(5) 牛肉の購入理由

表2-12に牛肉を買う理由を示す。九州も関東もおいしいからという理由が8割を占めているし、年齢階層別にみても8割前後の人がおいしいからと答えている。ただし、60歳以上層には21.1%の人が栄養があるからと回答しており、注目される。

また、牛肉を買いたくない理由を表2-13に示すが、全体的に90%の人が、価格が高いからと答えており、生産者は特に注意すべきであろう。関東では93%の人が高いと指摘し、九州では15.8%の人がかたいから牛肉を買いたくないと答えている。

(6) 牛肉の料理法

牛肉を使った夏の最も多い料理法は表2-14に示すように、焼肉の48.8%であり、スキヤキの19.4%、ステーキの19.4%がこれに続いている。九州では、焼肉、ステーキ、煮込みの順であるが、特に焼肉料理が多い。関東では、焼肉、スキヤキ、ステーキの順である。

年齢階層別にみると30歳代が焼肉に最も多く集中しているが、そ

表2-13 牛肉を買いたくない理由

(単位：人、%)

	高い	脂肪が多い	かたい	おいしくない	合計
九州	14 73.7	2 10.5	3 15.8	0 0.0	19 14.7
関東	103 93.6	2 1.8	4 3.6	1 0.9	110 85.3
合計	117 90.7	4 3.1	7 5.4	1 0.8	129 100.0
20歳代	13 81.3	0 0.0	3 18.8	0 0.0	16 12.4
30歳代	46 95.8	1 2.1	1 2.1	0 0.0	48 37.2
40歳代	32 94.1	1 2.9	0 0.0	1 2.9	34 26.4
50歳代	17 85.0	2 10.0	1 5.0	0 0.0	20 15.5
60歳以上	9 81.8	0 0.0	2 18.2	0 0.0	11 8.5
合計	117 90.7	4 3.1	7 5.4	1 0.8	129 100.0

注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。
 地区別のカイ2乗値=9.26、有意率=2.61%、
 年齢階層別のカイ2乗値=18.75、有意率=9.49%。

れ以降は徐々にその割合をおとし、スキヤキが徐々に増加している。

冬の最も多い料理法は表2-15に示すように、スキヤキが最も多く、焼肉、ステーキがこれに続いているが、スキヤキが特に多い。東京では特にスキヤキが多く注目される。

年齢階層別にみるとスキヤキの割合が年齢とともに増加していることがわかる。しかし20歳代

表2-14 牛肉を使った夏の最も多い料理法

(単位：人、%)

	スキヤキ	シヤブシヤブ	煮込み	焼肉	カレー	シチュー	ステーキ	合計
九州	2 5.7	0 0.0	3 8.6	20 57.1	0 0.0	0 0.0	10 28.6	35 20.6
関東	31 23.0	5 3.7	6 4.4	63 46.7	5 3.7	2 1.5	23 17.0	135 79.4
合計	33 19.4	5 2.9	9 5.3	83 48.8	5 2.9	2 1.2	33 19.4	170 100.0
20歳代	2 10.0	0 0.0	1 5.0	8 40.0	0 0.0	1 5.0	8 40.0	20 11.8
30歳代	7 12.7	2 3.6	4 7.3	34 61.8	2 3.6	0 0.0	6 10.9	55 32.5
40歳代	5 11.4	2 4.5	2 4.5	21 47.7	2 4.5	1 2.3	11 25.0	44 26.0
50歳代	10 33.3	0 0.0	1 3.3	12 40.0	1 3.3	0 0.0	6 20.0	30 17.8
60歳以上	8 40.0	1 5.0	1 5.0	8 40.0	0 0.0	0 0.0	2 10.0	20 11.8
合計	32 18.9	5 3.0	9 5.3	83 49.1	5 3.0	2 1.2	33 19.5	169 100.0

注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。
 地区別はカイ2乗値=10.79、有意率=9.49%、年齢階層別のカイ2乗値=30.97、有意率=15.48%。

表2-15 牛肉を使った冬の最も多い料理法

(単位：人、%)

	スキヤキ	シヤブ	煮込み	焼肉	カレー	シチュー	ステーキ	合計
九州	16 45.7	1 2.9	0 0.0	9 25.7	0 0.0	1 2.9	8 22.9	35 20.8
関東	107 80.5	4 3.0	3 2.3	7 5.3	0 0.0	6 4.5	6 4.5	133 79.2
合計	123 73.2	5 3.0	3 1.8	16 9.5	0 0.0	7 4.2	14 8.3	168 100.0
20歳代	13 68.4	1 5.3	1 5.3	2 10.5	0 0.0	1 5.3	1 5.3	19 11.4
30歳代	39 72.2	2 3.7	2 3.7	4 7.4	0 0.0	3 5.6	4 7.4	54 32.3
40歳代	31 70.5	1 2.3	0 0.0	5 11.4	0 0.0	2 4.5	5 11.4	44 26.3
50歳代	24 80.0	1 3.3	0 0.0	1 3.3	0 0.0	1 3.3	3 10.0	30 18.0
60歳以上	15 75.0	0 0.0	0 0.0	4 20.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	20 12.0
合計	122 73.1	5 3.0	3 1.8	16 9.6	0 0.0	7 4.2	14 8.4	167 100.0

注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。

地区別はカイ2乗値=28.90、有意率=0.01%、年齢階層別のカイ2乗値=11.70、有意率=92.61%。

においても冬にはスキヤキの割合が依然として多いようである。

一般に、最近、若年層において焼肉としての牛肉消費が増加していると言われているが、それは特に夏に見られる現象であり、冬にはまだ、スキヤキとしての消費が多いようである。

表2-16 生肉生産者への要望

(単位：人、%)

	安い牛肉	赤身の多い牛肉	やわらかい牛肉	シモフリの多い牛肉	合計
九州	19 52.8	3 8.3	12 33.3	2 5.6	36 21.1
関東	80 59.3	10 7.4	31 23.0	14 10.4	135 78.9
合計	99 57.9	13 7.6	43 25.1	16 9.4	171 100.0
20歳代	13 65.0	0 0.0	5 25.0	2 10.0	20 11.8
30歳代	33 58.9	4 7.1	13 23.2	6 10.7	56 32.9
40歳代	30 68.2	2 4.5	10 22.7	2 4.5	44 25.9
50歳代	13 43.3	4 13.3	8 26.7	5 16.7	30 17.6
60歳以上	10 50.0	2 10.0	7 35.0	1 5.0	20 11.8
合計	99 58.2	12 7.1	43 25.3	16 9.4	170 100.0

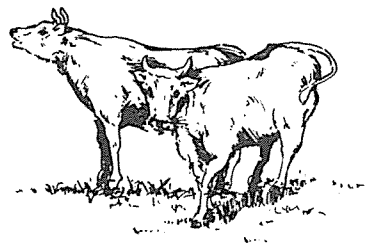
注：上段は実数、下段は行の構成比を示す。

地区別のカイ2乗値=2.16、有意率=54.03%、年齢階層別のカイ2乗値=10.30、有意率=59.01%。

(7) 牛肉生産者への要望

表2-16に牛肉生産者への要望を示す。九州も関東も安い牛肉の生産を50%以上の人が要望している。2番目にはやわらかい牛肉、3番目にはシモフリの多い牛肉、4番目には赤身の多い牛肉を要望している。世上、生産者や技術者はシモフリの多い牛肉を生産すべきか赤身の多い牛肉を生産すべきかについて議論しているが、消費者はそのことよりも、むしろ安くてやわらかい牛肉を望んでいるのである。

60歳以上では、やわらかい牛肉、赤身の多い牛肉を望んでいる人の割合が若い人より多い。しかし、年齢と要望の間には、規則的な傾向は認められない。



褐毛和種の肥育

九州農試畜産部家畜第一研究室

寺田隆慶・住尾善彦* (* 熊本県畜産課)

〔枝肉歩留の項の追補〕

先号では、枝肉歩留の月齢に伴う変化について触れた。そのなかで、枝肉歩留は肥育牛の販売高を決める量的因子の中では最大のものであると述べた。しかし、枝肉歩留はその定義から①極めて変動し易いという性質があり、また、見方を変え、食肉として販売できる肉量の多い枝肉を生産するという立場からすると、②この歩留が極端に高いということは必ずしも好ましいことではない。そこで、この2点について若干の敷衍を行なっておきたい。

まず、第1の点である。枝肉歩留の定義は、枝肉重量が、屠殺後の、どの時点で計測されたものであるかという問題がある。現在よく用いられる主なものには、屠殺直後に脊割りして計測する温屠体重量、冷蔵後に計測する冷屠体重量、さらには温屠体重量から“水引”と称して屠場や土地の商習慣により数%の重量を差し引いて求める水引き枝肉重量などがある。温屠体と冷屠体の重さの差には冷蔵期間、冷蔵温度および冷凍庫の機能などが係わる。

また、分母となる体重には、肥育が終了した直後の体重(絶食前体重)、絶食して屠場に出荷する直前の体重、屠場に着いたときの体重(着荷体重)や屠殺直前の体重などがあり、これらの体重は状況によってかなりの差を生じる。出荷体重では絶食後の時間、着荷体重では絶食後の時間と輸送の距離と手段、屠殺前体重では前述の要因に加え、屠殺までの留置の時間とその施設、構造などが関係する。絶食前体重からの目減り(終了時と屠殺直前との差)は30~70kgにも達する。飲水の制限の時間と方法も大きい要因となる。

一般に、生産の現場では(水引枝肉重量/着荷体重)×100が枝肉歩留として用いられることが多く、この場合は60~63%の値となる。一方、研究報告等には(冷屠体重量/絶食体重×100)がよく用いられ、この場合、普通の仕上げだと

63～68%の値となる。

次に第2の点、枝肉歩留と枝肉の中で食肉として販売できる肉量との関係である。この関係を明らかにするため、枝肉歩留(冷屠体重/絶食体重×100)と枝肉構成(筋肉、脂肪と骨の重量割合)との関係を見てみよう。

一般的には、枝肉歩留は月齢が進み、肥育度が増すにしたがって高くなる。この枝肉歩留と枝肉中の筋肉、骨および脂肪の実重量(組織重量)との関係を図示したのが図6である。図の読み方は前号と同様である。図中の■が折曲点で括弧内の数値はその座標であるが、(筋肉+脂肪)の重量の座標は枝肉歩留のみ裸で示した。

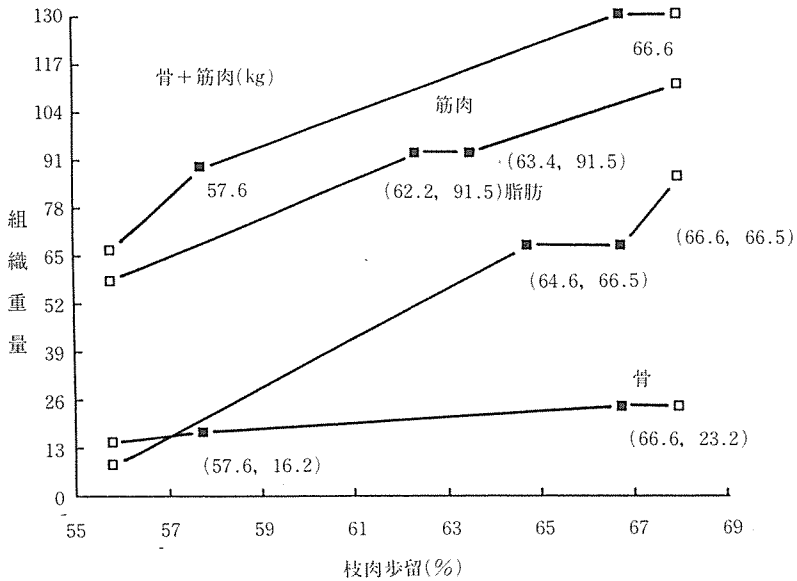


図6 枝肉歩留と枝肉構成との関係

(筋肉+脂肪)の重量は枝肉歩留が57.6%に達するまで急激な成長を遂げ、66.6%以降になると重量の増加は期待できないという結果が得られた。57.6%までの直線の勾配と57.6%から66.6%までの勾配は明らかに前者が大きく、枝肉歩留の単位増加当りの(筋肉+脂肪)の重量の変化が大きいことを示す。この変化を筋肉と脂肪に分けてみると次のようになる。

筋肉は枝肉歩留の62.2%までが第1の直線、62.2から63.4%までが第2の直

線、63.4%以降が第3の直線で表わされた。この第2の直線の勾配は零である。第1と第3の直線の勾配は正で、勾配は第1>第3であり、筋肉の成長は枝肉歩留の62.2%までが早いことを示唆する。一方、脂肪は64.6%までが第1、62.2から66.6%までが第2、66.6%以降が第3の直線で表わせた。筋肉と同様に第2直線の勾配は零であるが、第1と第3の直線の勾配は筋肉とは、逆に、第1<第3となり、枝肉歩留が66.6%となった以降、脂肪の蓄積が急激に進ずむ訳である。このことは、同図に示した筋肉と骨の第1と第3の直線の勾配と対応して比較すると一層よく理解される。

筋肉、脂肪とも第2の直線は、勾配が、零であった。このことは、第1と第3の直線の性質が前述したように異なるようになることから、ある意味では、これらの生体的準備期間とも受け取られる。しかし、ここでいう筋肉と脂肪は、人手で、出来るだけ丁寧に、解剖学的に分けたものであるところから、第2の直線の勾配が零であるという意味は、①実験牛の中に比較的成長が早く完成する(脂肪が蓄積し易い)早熟タイプと遅くまで成長を続ける(脂肪が付きにくい)晩熟タイプとが混っていたと推定されること、②ハモンドの唱える段階発育説に従えば、個体内の組織の完成は神経組織、骨、筋肉及び脂肪の順に行なわれるが(このことは、骨、筋肉及び脂肪の第1折曲点の順序によく表われている)、最も盛んな成長を示す組織の移行が筋肉から脂肪へと徐々に起こり、また、この移行期には筋肉内への脂肪蓄積もかなり進むと考えられることなどが重なり、表面的(計算的)には勾配が零という直線が得られたと解される。

このような筋肉と脂肪の重さの変化と、この間における骨重量の変化が比較的小さいということが加わって、枝肉の主構成要素である筋肉、脂肪と骨の構成割合の変化は、図7に示した経過を辿る。即ち、枝肉歩留が高くなるにしたがって、枝肉中の筋肉の割合が減り、脂肪の割合が急増し、この脂肪と筋肉の割合の関係はちょうど鏡文字のような関係にある。特に、同図からは、枝肉歩留67%以上ともなると著しく脂肪の構成割合が高くなることがはっきりと分かり、食肉生産という視点からは枝肉歩留を無制限に高めるということは、決して、好ましいことではない。このような現象は、何も、あか牛に限って見られる現象ではないが、図7から判断する限り、枝肉中の脂肪割合が急激に増加し始めるときの枝肉歩留、66~67%(この時の枝肉中脂肪割合は約35%前後)を越

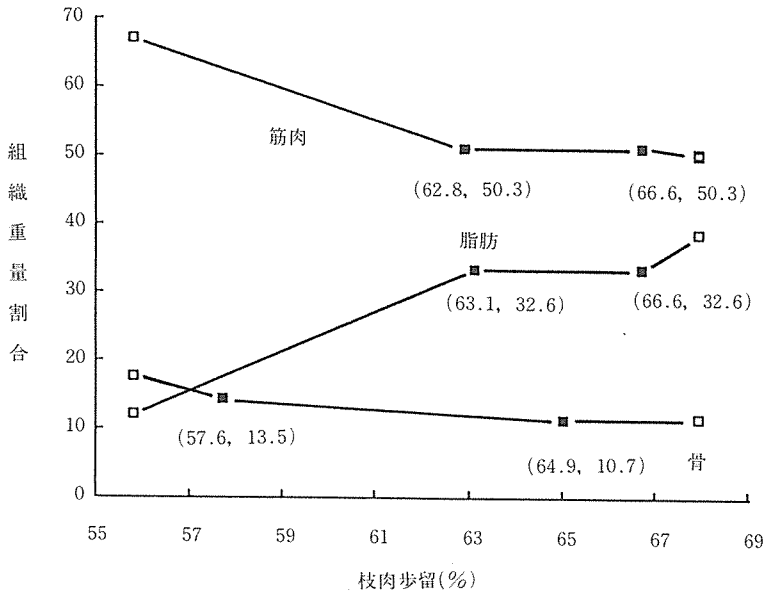


図7 枝肉歩留と枝肉構成割合（組織重量割合）

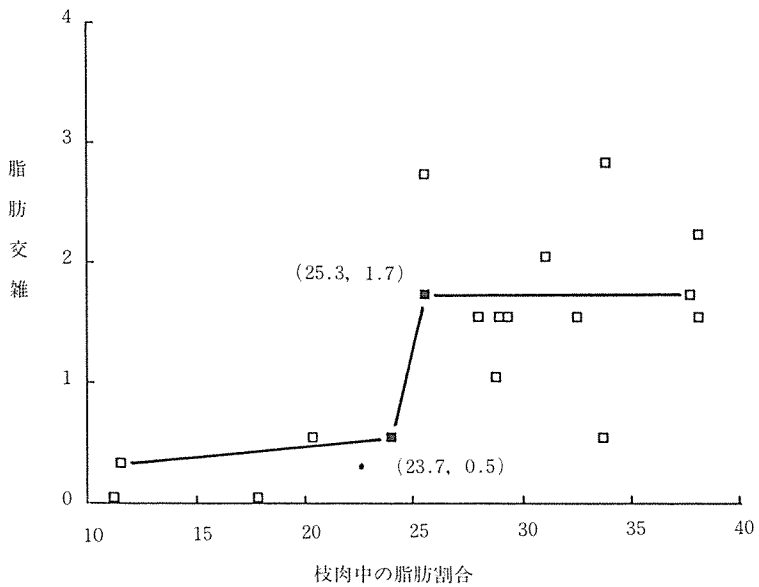


図8 枝肉中の脂肪割合と脂肪交雑（組織重量割合）

えるような仕上げでは、厚脂にならないような肥育を心掛けなければならない。

枝肉中の脂肪割合と脂肪交雑との関係を図8に示した。同図によれば、枝肉中の脂肪割合が25%以前と以後では脂肪交雑に格段の差があること、枝肉中の脂肪割合が25%になると平均的な脂肪交雑は2弱となること（枝肉格付でいう「上」に格付けされる資格のある個体が、かなりの頻度存在する可能性がある）および枝肉中の脂肪割合と脂肪交雑との関係を表わす第3の直線はX軸と並行であることなどが、明快である。したがって、前述した枝肉歩留66~67%、枝肉中脂肪割合が35%を越えない肥育仕上げを目指したとしても、35%という値が第2折曲点のX値(脂肪割合)25.3%を約10%も越えた値であり、すでにその牛の持つ遺伝的な脂肪交雑に十分に発揮できる状況にあると考えられ、肉質の低下をもたらすような心配はない。

4) 枝肉中の筋肉、脂肪と骨の割合

枝肉の脂肪付着は、外観的な観察(官能的観察)によって判断される。枝肉の脂肪を皮下脂肪、筋間脂肪と体腔脂肪に分けるとすると、皮下脂肪の割合が約半分以上を占めることが多いので、皮下脂肪の厚さは枝肉中の脂肪割合の一つの目安となり、枝肉の外観検査項目の一つとして取り入れられている。この脂肪付着状況は、厚脂にでもならない限り、月齢が進むにつれて、また、肥育度が進むほど良好となることなどは、読者賢者の多くが既に経験されているところであろう。

このような月齢、肥育度が進むにつれての外観的な脂肪付着の変化は肉眼的観察でも出来る。しかし、枝肉中の脂肪の重量割合ともなるとそうは簡単に求められないので、多くは、官能的な脂肪付着の観察結果や、二分体の断面あるいは四分体の横断面にある脂肪層の厚さなどから、間接的に、推定が行なわれているというのが現状である。

枝肉中の筋肉、脂肪と骨の構成割合(以下では体構成という)は正肉量やカタピリティに影響する要素であり、枝肉中の可食肉量との関連で極めて重要とされる。が、あか牛の肥育牛について、このような体構成の変化を体系的に明らかにしたのは、著者の一人である住尾らが始めてで、極く最近のことである。

枝肉中の筋肉、脂肪と骨の重量割合は、月齢が進むにつれて筋肉と骨の割合が逓減するが、逆に、脂肪の割合は増える(図8)。即ち、枝肉中の筋肉割合の

月齢に対する変化は、3本の直線の組み合わせで表わすことが出来た。3本の直線の勾配は何れも負で(勾配の絶対値は第1<第2<第3の直線)、折曲点の座標は第1が(16.0, 53.2)、第2が(25.6, 48.5)である。筋肉割合は16ヵ月齢まで急激に下がり、約26ヵ月齢以降も低下し続ける。この低下速度は、折曲点を迎える毎に緩やかとなるが、逆に、脂肪の方は増加速度を増すので、枝肉全体として見ると脂ばいものとなる。骨は、12.2ヵ月齢(第1折曲点)まではかなりの速度で低下し、17.4ヵ月齢(第2折曲点)以降の低下は極めて緩やかとなるが、全体としての変化は小さいという特徴がある。

一方、脂肪割合は月齢と共に増加を示す唯一の組織である。第1の折曲点である約17ヵ月齢までの増加が極めて早く、第2の折曲点約22ヵ月齢以降は第1折曲点までと比べると成長の勾配それ自体は小さくなるが、筋肉のそれ(マイナス勾配)と比べると著しく高い成長を示すことが分かる。第1と第2の折曲点の間の変化を表わす第2の直線は、その勾配がX軸と並行となった。このことは、前にも触れたように試験牛に早熟と晩熟の個体が含まれていたのを、また、枝肉歩留の項で触れたように筋肉から脂肪への成長の移行の現象をも含めて、たまたま、込みにした計算が行なわれた結果、計算上得られたものと考えられる。この間も、個々の個体について経時的な観察を行なうことができるとすれば、個体内では、継続的な脂肪蓄積の増加が行われている筈である。

このように21.9ヵ月齢以降、脂肪割合が急激に増えることが、肥育の後期に体重の増速度加が遞減し、図4に示したように体重の増加が24.6ヵ月齢以降伸びなやみとなる大きな要因である。(図4に示した直線式から推定すると、このときの体重は645kg)。

(以下次号)



宮城県のあか牛の現況と課題

宮城県支部 松 永 剛

はじめに

宮城県の昭和58年度における農業粗生産額は約3,200億円であるが、このうち畜産総生産額は約900億円余(約28%)で、米につぐ基幹作物となっている。又畜産のなかでは、豚の粗生産額が最も多く、次いで乳用牛、鶏、肉用牛の順となっているが、最近3ヶ年の伸び率をみると、肉用牛が最も高く125%となっているのに対し、その他は何れも100%前後にとどまっている。(表1)

宮城県の肉用牛飼養頭数は98,300頭(60.2.1)と、飼養頭数においては全国第6位をしめているが、反面、1戸当りの飼養規模は4.5頭で全国最低の位置にあり、零細規模が多い。

表1 宮城県農業の粗生産額

項 目	単 位	45 年	50 年	55 年	58 年
米	百万円	80,523	167,156	137,618	177,943
米以外耕種	"	18,424	38,542	51,860	52,738
畜産	"	20,235	51,871	88,593	90,544
(豚)	"	7,132	22,489	34,634	37,123
(乳用牛)	"	6,015	12,335	20,138	19,919
(鶏)	"	4,624	12,115	21,775	19,002
(肉用牛)	"	2,408	4,603	11,571	14,500
合計	"	121,450	260,600	281,981	321,225

現在は肉専用種(約66,000頭)のうち黒毛和種が圧倒的に多く飼養されている。種雄牛は歴代兵庫系が多く使用されているためか、生産子牛が小柄になっているとして最近、繁殖農家の間から体積ラインの系統の種雄牛を求める声が出て

いる。

1. あか牛飼育の現状

一方、宮城県のあか牛は、昭和25年代から30年代にかけて肉牛飼養頭数の約半数(13,000頭前後)近く占めており、あか牛に情熱こめた“元老、達も何人かおられたことをいまは懐しく思い出される。

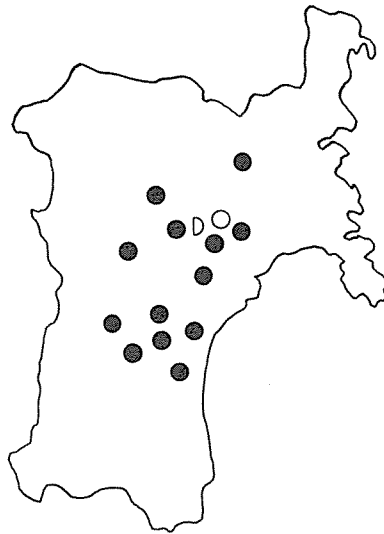
当時は、未だ農業機械の普及前とあって、農繁期ともなると水田のあちこちに田起しに励むあか牛の姿が見られたものである。もともとあか牛は性質が温順で、体積があり、やや尻が傾斜しているものが多く(現在はあまり見受けられない)力学的にも牽引力が黒毛にまさると云われていた。

しかし40年代以降の高度経済成長期に入り耕耘機が肉用牛にとって変った。一方、消費者の好みも上質志向が高まり、宮城県においても黒牛とあか牛との価格差が大きくなり、あか牛の数も最盛期の $\frac{1}{10}$ を割る程に激減した。現在は黒川郡大郷町、大和町を中心に飼養され、仙台周辺に若干散在する程度にまで衰退した。

宮城県のあか牛飼養の推移

●旧飼養頭数
(1千頭)

○現在飼養頭数
(1千頭)



2. 牛肉生産をとりまく厳しい内外情勢

昭和60年後半以降は、豚価が低迷し、消費者価格が下落したにもかかわらず、

牛肉の末端消費はすさまじい伸びをしめし、在庫逼迫の懸念さえ生じた肉店が続出した。暮近くの需要期と云う背景もあろうが、牛肉の潜在需要は非常に大きいものと考えさせられた。

京大の宮崎教授は、畜産の研究(新年号)の中で、2001年の国民1人当りの牛肉消費量は8kg程度となり、現在の約倍程度になるだろうと予測し、その調達は容易でないとも指摘している。さらに今後の牛肉生産は少量の上質牛肉を除けば、輸入牛肉に対抗出来るだけの低コストになっていなければならないとのべている。まさに的を得た指摘であろうと思われる。

ところで日米の貿易摩擦はますます深刻の度を加え、我が国に対する牛肉の市場開放の波はヒタヒタと押しよせてきている。

消費者の立場にたてば“安くて美味しい。”牛肉さえ食べられれば、どこの国の牛肉でもよいという潜在意識のあることも事実であろう。

“安くて美味しい。”牛肉とは生産者に対して早熟早肥で飼料の利用性に富み赤肉が多く肉質もよい低コストの牛肉を生産せよと云うことにもなるか。このような消費者のニーズに、応え得るのはあか牛ではなかろうか。

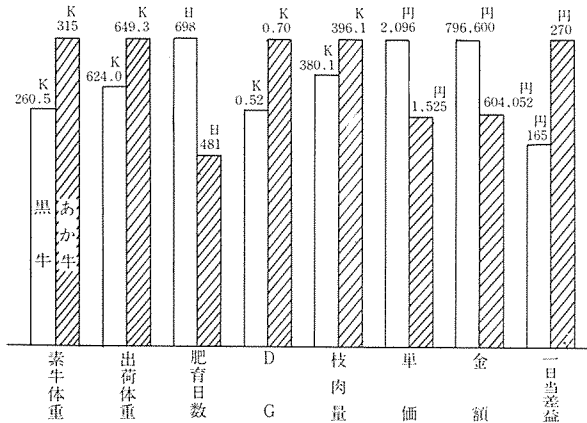
3. 見直したいあか牛の特性

ところで、宮城県の肉牛肥育の主流は黒牛を素牛にした上質肉作りである。とくに名牛茂重波号(兵庫産)を父にした肥育牛は上もの率72.5% (家畜改良事業団の産肉調査)と、全国一の肉質を誇り、仙台牛の銘柄づくりに大きな貢献をしている。一方生産技術においては、晩熟系の素牛と云うこともあるが、肥育日数が長過ぎるために生産コストも高く、1日当りの増加額は必ずしも良好な結果とは言得ない現状にある。上質肉生産農家の経営を安定向上させるためにも、今後検討を要する大きな課題ではなかろうか。翻って、宮城県におけるあか牛飼育の現状を見ると、肥育頭数はここ数年の間に生産地帯である大郷、大和町を中心に数倍に急増している。以前は大半が生体取引であったが、最近では、全頭枝肉取引に切替り、出荷の都度枝肉の状態、肉質の良否についてまで精査している。

肉質、単価は当然のことながら黒牛に及ばないが、増体速度や肥育日数は明らかにあか牛がまさっているが、ただ肉質においてややバラツキがあるのが難

点と言えよう。

肥育が“先行”しているだけに素牛の供給は、県内のみでは到底供給し切れず、他県から導入している。繁殖牛の増頭について県当局、農協担当者等、ともども、種々その方策を考え腐心している現況である。



あか牛飼養農家の成績(黒牛との比較)

おわりに

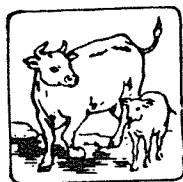
云うまでもなく、登録事業(改良事業)の最終目標は、遺伝的改良により経済価値を高めて生産者の利益を向上することにある以上、ただ単に、仕上がった生体や枝肉の美観だけを競い合い各種の共進会や共励会の意義をどこに見出せばよいのだろうか。重要なのは仕上るまでにかかる諸経費であり、生産者個々の正味利益(1日当増加額、1日当差益)が如何程になったかと云うことである。

幸いあか牛地帯の大郷町には、県農業公社の大郷牧場(270ha)がある。ここでは約250頭(黒牛200頭、あか牛50頭)の繁殖牛を放牧飼養してきたが、あか牛は放牧適正が高く、国際競争力にも対抗し得る牛との見通しから、近々大半あか牛に切替える方針だという。あか牛振興の一大拠点として、今から周辺あか牛生産者の注目を集め、その成果が期待されている。

今後、わが国の肉牛界はますます厳しさを増すであろうことを考える時、あか牛の持てる立派な特性をフルに生かし、能力を引き出す工夫を一段と高め、

さらに肉質の斉一性(少くとも中もの率70%~80%)を実現し得るならば輸入牛肉に充分対抗出来得るのではなかろうか。

生産農家の奮起とあか牛の発展を心から祈念するものである。



会 報

○ あか牛改良推進全国研究会

あか牛改良推進全国研究会は、昭和60年11月26日～29日の4日間熊本県菊池郡七城町畜産流通センターなどを会場にして開催した。今回は九州大学の古賀教授、鹿児島大学黒肥地教授、佐賀大学岡本助教授、宮崎大学原田助教授、東北農試滝本室長、九州農試寺田室長、熊本県畜試秦場長、日本食肉格付協会和田理事を講師として迎え、また北海道、秋田、宮城、静岡、長崎の各県に地元熊本県から多数の関係者が出席した。

第1日目は畜産流通センター内において開会、今村副会長のあいさつの後、肉牛の生体研究に移った。21頭の材料牛を中心に肥育度や飼料給与状況の検討、続いて超音波スキャンングスコープを用いて枝肉の脂肪厚、ロース芯面積、脂肪交雑等を推定した。

第2日目は、熊本県畜産会館において中央審査委員会を開催した。

第3日目は、会場を菊池畜産農協に移し子牛9頭、母娘系統群9頭を用いて、繁殖牛の栄養度や系統の遺伝的影響について検討した。

第4日目は畜産流通センターにおいて、枝肉格付の指導を受けたり、市場性について議論がかわされた。引き続いて、菊池畜協研修センターに会場を移し、日本食肉格付協会理事和田治男氏の「牛肉の格付について」と題する特別講演を全員で聴講し、その後シンポジウムを経て午後1時すぎ全日程を終了し閉会した。

○ 中央審査委員会

昭和60年11月27日、熊本市草葉町畜産会館において、中央審査委員会を開催した。今回は中央審査委員として委嘱された新メンバーによる第1回目の会合であった。

当日の出席者および協議事項は次の通りである。

(出席者)

坂下幹男、滝本勇治、寺田隆慶、古賀 脩、岡本 悟、寺本一人、
秦 定、入澤充穂、陶山 潤、城 光宣、下村昭久、浅田 駿、
今村 来、山部龍三、工藤益雄、松川昭義

(協議事項)

- (1)登録規程の改正について
- (2)審査細則の追加について
- (3)小委員会の設置について

○ 正副会長、常務理事懇談会

昭和61年2月1日、熊本市草葉町畜産会館において、正副会長常務理事会議を開催した。

当日は續会長、今村、山部両副会長、高田常務理事のほか秋田県、熊本県より3理事が特別出席され、また来賓として岡本熊本県支部長、熊本県畜産課品田課長、上田課長補佐の出席があった。

協議内容は次の通りである。

- (1) 昭和60年度事業進捗状況について
- (2) 昭和61年度事業計画及び予算の骨子について
- (3) 中央審査委員会ほか各種委員会の強化拡充について

○ 中央審査委員会小委員会

昭和61年2月28日、熊本市草葉町畜産会館において第1回目の中央審査委員会小委員会を開催した。当日はかねてからの懸案であった「あか牛の育種目標」の審議を中心に開かれた。

当日の出席者は下記の通りである。

坂下幹男、寺田隆慶、城 光宣、工藤益雄、
山部龍三、松川昭義

○ あか牛技術者養成高等研修会

あか牛についての深い知識と指導力を身につけるための技術者養成高等研修会は、昭和61年3月27日～29日の3日間熊本市草葉町畜産会館研修室を中心に開催した。今回は九州大学甲斐先生、九州農試寺田室長、熊本県畜試後藤研究員、日本食肉格付協会七城事業所菊川所長、本会工藤理事、松川事務局長を講師に、また宮城県、長崎県に地元熊本県から多数の関係者が出席した。

第1日目は畜産会館において開会、講師紹介等のあとさっそく講義に移った。講義内容、講師等は次の通りである。

会場：熊本市草葉町 畜産会館（第1会場）

熊本県菊池郡合志町 熊本県畜産試験場（第2会場）

同 七城町 熊本県畜産流通センター（第3会場）

日 程	時 間 割	研 修 内 容	講 師	
3月27日 (木)	9:30～10:00	集合、開会式		第一会場
	10:00～12:00	講義（あか牛の肥育技術）	九州農試畜産部 寺田 隆慶	
	13:00～15:00	講義（繁殖・受精卵移植）	熊本県畜産試験場 後藤 孝一	
	15:00～17:00	講義（改良と登録）	日本あか牛登録協会 工藤 益雄	
3月28日 (金)	9:00～11:00	講義（肉用牛経営）	九州大学農学部 甲斐 諭	第一・第二
	11:00～12:00	討論会		
	13:00～17:00	実習（審査・管理）	日本あか牛登録協会 松川 昭義	
3月29日 (土)	9:00～10:30	実習（枝肉審査）	日本食肉格付協会 菊川 礼久	第三・第一
	11:00～12:00	レポート作成		
	12:00～13:00	反省会 解散		

○ 中央審査委員の委嘱・任命

中央審査委員の任期満了に伴い、下記の通り委嘱・任命された。

(委嘱期間：昭和60年11月1日より3年間)

- 坂下 幹男 (熊本種畜牧場阿蘇支場)
滝本 勇治 (東北農試畜産部)
寺田 隆慶 (九州農試畜産部)
黒肥地一郎 (鹿児島大学農学部)
古賀 脩 (九州大学農学部)
岡本 悟 (佐賀大学農学部)
寺本 一人 (熊本県畜産物価格安定基金協会)
秦 定 (熊本県畜産試験場)
上田 一明 (熊本県畜産課)
入澤 充徳 (北海道支部)
小林 俊夫 (秋田県支部)
佐藤 善英 (宮城県支部)
橋本 健士 (長崎県支部)
陶山 潤 (長崎県対馬支部)
城 光宣 (熊本県支部)
下村 昭久 (同)
浅田 駿 (同)
今村 来 (本 会)
山部 龍三 (同)
工藤 益雄 (同)
松川 昭義 (同)

○ 登録規程の一部改正案

—農林水産大臣あてに承認申請—

かねてから検討を進めてきた高等登録資格条件等を中心とした登録規程の改

正について、さきの中央審査委員会での審議を最終として成案が得られたので、昭和61年3月12日付で農林水産大臣あてに承認申請書を提出した。

改正案が原案通り承認されれば、4月1日より施行の予定である。

改正の要点は次の通りである。

△ 高等登録資格条件の改正

高等登録になるためにはいくつかの条件を満たさなければならないが、本会の高等登録が制度化されてすでに二十数年が経過し、その間時代の要請の変化と改良の進歩などから資格条件の見直しが必要になってきた。また、肉専用種としてのあか牛の位置づけのためにも、なお一層の能力向上とその裏付けとなる遺伝的改良を図ることが、今回の改正における最大のねらいでもある。

以下、改正の要点を抜粋しその趣旨を述べることにする。

① 繁殖成績が良好であること	30ヵ月までに初産を分娩、以後連産していること 2回以上の流産、死産がないこと
② 遺伝的異常形質の出現有無	本牛の産子及び4代祖先までの産子中に別に定める遺伝的異常形質を出現していないこと
③ 産子成績	<p>○めすの場合</p> <p>81点以上の登録牛2頭以上生産</p> <p>ただし、次のいずれかに該当するものは83点以上1頭でよい</p> <p>ア 本牛が特級登録牛</p> <p>イ 両親が高等登録又は特級登録</p> <p>ウ 母と祖母が高等登録</p> <p>エ 別に産肉性の優れたもの(去勢)を1頭以上生産</p> <p>○おすの場合</p> <p>特級登録牛を20頭以上生産</p> <p>産肉能力検定成績良好なもの</p>
④ 外貌審査得点	<p>めす 81点以上</p> <p>おす 85点以上</p>

① 繁殖成績が優れていることは高等登録牛の最大の使命である。そこでこれまでいくつか分散していた表現を「繁殖成績良好で」というかたちに統一し、内容の説明は別途審査細則で補足することになった。

具体的には、最近やや遅れがちな初回種付月齢を正常にもどすために「初産月齢を30ヵ月以内」とし、以後の連産性を要求している。また、「2回以上の流産、死産がないもの」は現行のまま残されているが、特に最近発生が目立つウィルス性の異常出産については、明らかな証明があるものに限りこの回数に加えないことになっている。

② 遺伝的異常形質を積極的に淘汰するために、従来の規準をさらに2代さかのぼり、「本牛の産子及び4代祖先までの産子中に……出現していないもの」とした。これは近年、散発的であるが異常形質の発生があることから、これらの不良因子の拡散を防ぎ、また潜在的に保有する疑いのあるものをそのまま高等登録に選抜することは好ましいことではないために積極的淘汰を進めるものである。

③ 従来、1級登録牛を2頭以上生産することが産子成績としての最小の条件であった。登録牛の大多数は雌牛であることから、雌牛を生産しなければ資格が生まれないといい過ぎでなかった。このために一般の高等登録受審牛は早いもので5歳、平均7～8歳とその大半が老齢牛であり、合格してもその後の供用年数は短いものが普通である。そこで、今回の改正では受審年齢の若齢化を図るために特別の措置がとられることになった。また産子の得点については登録牛の現状を考慮して1点だけ引き上げられた。

雌の場合、原則としては「81点以上の登録牛を2頭以上生産」であるが、ただし書きによる特例として、次のア～エのいずれかに該当するものは「83点以上の登録牛1頭生産」で資格が生まれることになる。ただし、この場合でも正常な分娩で3産した後でなければ申込みを受理しないことになっている。

ア、本牛が特級登録牛

イ、両親が高等登録又は特級登録

ウ、母と祖母が高等登録

エ、別に産肉性の優れたもの（去勢）を1頭以上生産したもの

④ 高等登録審査時における外貌審査得点が従来の80点以上から81点以上（雄

の場合は85点以上)に引き上げられ選抜基準が強化されることになる。

△ その他の改正点

- ①登録の申込み方法が簡略化されることになり、子牛登記証明書でもって申し込むことができるようになった。
- ②2級登録証明書の記号番号が各道県別になっていたものを、全国統一の連番として本会より発行することになった。(各道県別の符号は廃止される)。



○ 高等登録審査成績

本誌「第54号」で公表以後、高等登録審査に合格したものは次の通りである。

(雄の部)

高等登録番	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高 67	第六蘇殖	89.5	蘇 殖 (高56)	ひ で こ (1級 6437)	熊本県球磨郡上村 球磨種雄牛集中管理事業所
高 68	第三球泉	86.1	球 泉 (1級463)	第三ます (1級32967)	" " "

(雌の部)

高等登録番	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高2168	てるふじ	81.1	竜 明 (高39)	は な (高 529)	熊本県菊池市 中 一 之
高2169	しずこ	83.1	蘇 明 (高35)	み つ わ (1級21649)	" 下益城郡砥用町 山 本 義 正
高2170	つるくさ	82.7	弦 重 (高54)	く さ ひ め (1級11605)	" " 船 田 喜三郎
高2171	そなつ	83.6	蘇 月 (高35)	ま ち こ (1級40913)	" " 小川町 藤 坂 光 秋
高2172	せいはいく	83.3	白 岩 (高52)	せ い か い (2級熊13125)	" " 城南町 牛 島 幸 孝
高2173	つるあき	82.6	弦 重 (高54)	あ き (高 1465)	" " 中央町 明 石 良 生
高2174	みさかえ	81.7	第 四 栄 (1級383)	た か ら (高 583)	" 上益城郡矢部町 本 田 清 美
高2175	さくら	82.0	蘇 月 (高35)	さ か え (1級36189)	" " 藤 本 憲 義
高2176	さかえ	81.4	柳 (1級167)	ゆ う こ (2級熊12880)	" 阿蘇郡長陽村 今 村 一 郎
高2177	はまくさ	83.5	草 南 (1級220)	は ま さ か え (1級 254)	" " 市 原 信 夫
高2178	かずたか	82.6	重 福 (高47)	た か ふ く (1級25850)	" " 高森町 吉 良 山 一 昭
高2179	ふ く	83.2	重 福 (高47)	第六たまさかえ (1級 4308)	" " 久木野村 飯法師 新 喜
高2180	は は	82.8	重 福 (高47)	す み ま る (1級25836)	" " 白水村 光 木 邦 久
高2181	たかひめ	80.7	楠 金 (1級361)	た か ね (1級20941)	" " 西原村 大 久 保 重 義
高2182	は や	82.8	重 福 (高47)	す (1級12766)	" " 高森町 住 吉 早 雄

高等登録番号	名号	得点	血統		所有者
			父	母	
高2183	第三すみれ	83.7	重福 (高47)	すみれ (1級24559)	熊本県阿蘇郡長陽村野角 満徳
高2184	しらゆき	83.8	球福 (1級426)	ゆき (1級40161)	" " 蘇陽町穴見 兼男
高2185	第九やぐも	84.4	光武 (高58)	第八やぐも (1級18812)	" " 長陽村長野 国勝
高2186	けさまる	82.1	重福 (高47)	はまとし (1級 1637)	" 菊池郡大津町中野 重熊
高2187	ゆみ	83.3	第三重川 (高61)	とよなみ (高 1317)	" 阿蘇郡蘇陽町甲斐 利徳
高2188	第一ふくなり	83.6	第三重川 (高61)	ふくなり (高 1329)	" " 白水村後藤 幸晴
高2189	しらゆき	82.1	光花 (1級487)	みやしげ (1級39032)	" " 西原村大久保 重義
高2190	ふくよし	83.3	第三重川 (高61)	ふくとみ (1級43411)	" " 蘇陽町藤佐 東雄
高2191	はれ	82.4	第三重川 (高61)	第三たから (2級熊36913)	" 菊池郡大津町古庄 静臣
高2192	ふじみつ	85.2	蘇月 (高35)	あさひ (1級31479)	" 阿蘇郡白水村渡辺 豊次
高2193	第五ほまれ	85.0	初宝 (高62)	第一ほまれ (高 371)	" " 久木野村今村 則夫
高2194	たかはな	82.8	第三蘇殖 (1級507)	かずたか (1級36655)	" " 高森町吉良山 一幸
高2195	たかひめ	83.9	福竜 (高57)	第四たかね (高 2095)	" " " 森繁 孝
高2196	第三ほまれ	85.0	第三蘇殖 (1級507)	ほまれ一 (1級41115)	" " 白水村梅田 浅年
高2197	しげひさ	84.1	第二重川 (高53)	はつひさ (高 544)	大分県竹田市前田 利袈
高2198	第一さとみ	82.0	第一重川 (1級517)	さとみ (1級21433)	熊本県阿蘇郡阿蘇町古閑 哲也
高2199	いみる	83.3	第二重川 (高53)	第六みのぶ (高 1397)	大分県竹田市金丸 尊
高2200	第六さかえ	80.0	第二重川 (高53)	みつひめ (1級23538)	熊本県阿蘇郡阿蘇町犬塚 勇
高2201	第四きく	85.3	第二重房 (1級483)	きく (高 950)	" " 産山村井 文明
高2202	はつさかえ	81.4	第一重川 (1級517)	まるさかえ (1級46280)	" " 阿蘇町島野 洋資
高2203	うめはな	83.6	第四栄 (1級383)	さくらひめ (高 1127)	" " 波野村高日 福德
高2204	第四ゆきやま	83.9	第四栄 (1級383)	第二ゆきやま (1級39180)	" " 一の宮町鳴川 義治
高2205	はつみどり	83.6	第二重川 (高53)	はつわか (1級23371)	" " " 加久 欣治
高2206	ふくはな	83.4	重宝 (高40)	ふくみや (1級23431)	" " " 河島 常光
高2207	第七みのぶ	83.3	重波 (高48)	第六みのぶ (高 1397)	大分県竹田市金丸 久道

高等登録番号	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高2208	ゆきなみ	84.1	第二重川 (高53)	ゆきふく (高 217)	熊本県阿蘇郡一の宮町 本 山 江津男
高2209	第三ふじ	80.7	第三栄 (高37)	あ そ (2級熊18260)	" " 産山村 山 部 華 陽
高2210	第三わかば	80.5	第二重川 (高53)	か す み (高 800)	" " 阿蘇町 宮 本 勝 義
高2211	あきひめ	82.6	重 宝 (高40)	まるふく (2級大128)	" " " " 上 島 柳 平
高2212	と し	84.3	重 玉 (高11)	さ か え (予熊23331)	" " " " 岩 下 政 秋
高2213	第三 たまゆう	83.7	竜 五 (1級459)	たまゆう (1級39941)	長崎県下県郡巖原町 和 久 保 義
高2214	第二さかえ	81.9	重 光 (高59)	さ か え (1級40518)	熊本県菊池市 渡 辺 高 行
高2215	よ し み	83.1	初 宝 (高62)	よしさかえ (1級45364)	" " " " 野 中 安 人
高2216	第一 みつはな	83.3	第一重川 (1級517)	みつはな (1級45216)	" 菊池郡大津町 木 村 ツヤ子
高2217	こ づ ち	82.4	光 武 (高58)	た か ら (高 1411)	" 上益城郡清和村 下 末 熊
高2218	ふ く よ	82.2	蘇 旗 (1級458)	ふ く よ (1級33520)	" " " " 渡 辺 為 成
高2219	な み え	83.4	重 波 (高48)	ひめさか (1級23581)	" " " 矢部町 平 田 繁 行
高2220	さ ゆ り	82.7	第三重川 (高61)	は つ え (高 1509)	" " " " 福 田 安 雄
高2221	第三はな	84.4	永 球 (1級417)	さ か え (1級 6311)	" 人吉市 久 本 常 喜
高2222	ちよふじ	82.6	球 福 (1級426)	しげつき (1級31475)	" " " " 大 塚 敏 雄
高2223	第四かつみ	82.4	重 宝 (高40)	第二かつみ (1級14295)	" " " " 古 川 憲 二
高2224	あ き み	84.7	蘇 殖 (高56)	とちはな (2級熊34796)	" " " " 上 原 政 一
高2225	はまひめ	80.1	永 球 (1級417)	ひさはま (1級34292)	" 球磨郡錦町 福 田 喜 義
高2226	第四みゆき	82.7	蘇 殖 (高56)	さ ち (高 713)	" " " " 藤 川 英 人
高2227	あ か ね	84.4	蘇 殖 (高56)	は る み (2級熊30658)	" " " " 上村 西 浩 吉
高2228	ふ く み	83.3	蘇 殖 (高56)	ふくひめ (1級39572)	" " " " 山 本 吉 己
高2229	さ か え	80.5	永 球 (1級417)	ふじさかえ (1級31912)	" " " " 梅 田 栄 太
高2230	き く よ	83.5	蘇 殖 (高56)	き く (1級36929)	" " " " 免田町 荒 木 英 一郎
高2231	さ つ き	80.7	第三竜月 (1級304)	や よ い (1級15276)	" " " " 上 田 敦
高2232	ふ く	82.7	第四重川 (1級524)	ふ く み (高 1478)	" " " " 岡原村 黒 木 義 男

高等登録番号	名号	得点	血統		所有者
			父	母	
高2233	たまひめ	82.2	蘇月 (高35)	ゆきたま (1級30162)	熊本県球磨郡岡原村 富田 有
高2234	ゆり	81.7	蘇殖 (高56)	さかえ (2級熊23448)	" " 多良木町 赤池 朝人
高2235	はつみ	82.5	蘇殖 (高56)	てるみ (1級34527)	" " " "
高2236	さつき	85.1	蘇殖 (高56)	きよさかえ (1級44192)	" " " 益田実美
高2237	みえ	85.2	蘇殖 (高56)	みつめ (1級43156)	" " " 入舟充介
高2238	きく	86.3	球泉 (1級463)	ふたひめ (1級15225)	" " " 森下孝幸
高2239	ふくえい	84.7	蘇殖 (高56)	いちご (高 1050)	" " " 野田康雄
高2240	みどり	81.7	蘇殖 (高56)	ゆりひめ (1級24011)	" " " 那須定八
高2241	すずよ	85.4	蘇竜 (高55)	すずな (高 1348)	" " " 湯前町 栗 和弘
高2242	はつはな	83.1	蘇殖 (高56)	はつひめ (1級29301)	" " " 渋谷巽
高2243	第二みどり	82.5	永球 (1級417)	みどり (1級34483)	" " " 須恵村 久保田 茂
高2244	第三ふく	83.8	蘇殖 (高56)	ふく (1級23708)	" " " 蓑田洋一
高2245	第三たけひめ	82.0	蘇月 (高35)	たけひめ (1級20287)	" " " 万江孝臣
高2246	第三ともえ	82.7	松房 (高60)	ともひめ (高 1066)	" " " 浜田武保
高2247	はつひかり	80.5	竜浦 (高19)	ひかり (1級29111)	" " " "
高2248	しげたま	82.0	重海 (1級301)	はるはな (1級27805)	" " " "
高2249	第一ふくみ	82.7	蘇月 (高35)	はるひめ (1級35330)	" " " 深田村 岩本 岩見
高2250	第二さいこ	83.9	蘇殖 (高56)	やよい (高 1108)	" " " 相良村 大森 隆一
高2251	めぐみ	82.0	蘇月 (高35)	みゆき (1級41792)	" " " 多良木町 大木 武夫
高2252	第二さかえ	82.5	蘇殖 (高56)	めいゆう (高 1163)	" " " 免田町 中村 継義
高2253	あやめ	84.2	第六蘇殖 (1級528)	ふくみ (高 500)	" " " 上村 尾方 寿郎
高2254	第二そゆき	82.8	蘇殖 (高56)	あきかぜ (高 1044)	" " " 多良木町 奥村 一利
高2255	つぎひめ	84.4	第六蘇殖 (1級528)	よつみ (1級29217)	" " " 上村 梅田 栄太
高2256	よしまる	82.0	蘇明 (高30)	第二さかえまる (1級30909)	" " 阿蘇郡南小国町 井 喜伴
高2257	みすず	83.1	光武 (高58)	とよ一 (高 1231)	" " " 河津守之

高等登録番号	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高2258	第二たまぎく	82.4	第二重川 (高53)	第四たまぎく (1級34705)	熊本県阿蘇郡南小国町 北 則 夫
高2259	は ま	83.3	蘇 月 (高35)	あきはた (1級25230)	" " " 浜 田 一 夫
高2260	み や	83.5	重 福 (高47)	あきはた (1級25230)	" " " 下 田 今 男
高2261	ふくふじ	84.3	光 武 (高58)	ふじいわ (1級36767)	" 下益城郡中央町 永 田 格
高2262	は る	83.1	蘇 月 (高35)	みどり (1級36017)	" 菊池市 武 藤 信 夫
高2263	ふ じ	83.8	蘇 月 (高35)	第七しらふじ (1級41814)	" " 有 田 幸 男
高2264	さ つ き	85.4	重 光 (高59)	やよい (2級熊3132)	" " 藤 本 信 雄
高2265	あ き こ	85.7	蘇 月 (高35)	たちばな (1級36002)	" " 稲 田 千 秋
高2266	第二はなえ	85.4	光 武 (高58)	はなえ (1級40668)	" 上益城郡矢部町 井 上 敏 慎
高2267	く に こ	81.0	重 福 (高47)	す ぎ (1級40712)	" " 飯 星 忠 元
高2268	さ か え	82.1	第 四 栄 (1級383)	とがり (本 3421)	" " 藤 本 明 男
高2269	しげきく	84.3	菊 玉 (高23)	しげこ (1級11425)	" " 佐 野 天 勇
高2270	きみひめ	84.3	第六蘇殖 (1級528)	なつえ (2級熊34840)	" " 矢部町 草 野 信 治
高2271	ま る み	81.6	蘇 明 (高30)	さかえ (1級32381)	" " 藤 岡 力 男
高2272	もみじもと	84.0	第三重川 (高61)	もみじもり (1級10702)	" 阿蘇郡長陽村 熊本種畜牧場阿蘇支場
高2273	さだじん	82.8	第二重川 (高35)	はましげ (1級31310)	" " " "
高2274	た じ 人	82.6	第二重川 (高53)	かわしげ (高 1274)	" " " "
高2275	第二まり	84.6	桜 (1級326)	あさたか (2級熊6262)	" " 久木野村 渡 辺 淳 一
高2276	み つ よ	81.9	草 光 (1級389)	み つ (1級17971)	" " 西原村 森 井 正 孝
高2277	第一よぎり	85.0	重 福 (高47)	よぎり (1級30298)	" " 長陽村 藤 本 久 男
高2278	たまみつ	80.4	蘇 重 (1級466)	ふ く (子熊39842)	" " 白水村 甲 斐 けさ子
高2279	しげなか	83.9	蘇 重 (1級466)	たけなか (1級17174)	" " 長陽村 後 藤 敏 夫
高2280	は つ み	83.8	原 美 (高46)	み つ よ (1級41231)	" " 西原村 森 井 正 孝
高2281	さ か え	81.9	光 武 (高58)	りゅうえい (高 1020)	" " 蘇陽町 興 梶 高 喜
高2282	は つ こ	82.5	初 宝 (高62)	は つ (1級31414)	" " 高森町 田 上 誠 記

高等登録番号	名号	得点	血統		所有者
			父	母	
高2283	くにとし	84.1	蘇 幸 (1級480)	とししげ (1級45915)	熊本県阿蘇郡久木野村 渡辺 淳 一
高2284	ふくこ	81.8	第三重川 (高61)	はなふく (1級45964)	" 菊池郡大津町 阪 田 三千人
高2285	ゆきまる	81.3	第三重川 (高61)	ゆきぐに (1級26628)	" 阿蘇郡蘇陽町 林 清 喜
高2286	ふえる	81.7	第三蘇殖 (1級507)	は つ み (1級43432)	" " " 有 働 智
高2287	たけのり	80.7	光 武 (高58)	としひめ (1級43361)	" " 高森町 杉 田 武 徳
高2288	はるとみ	82.7	福 竜 (高57)	みつとみ (1級12749)	" " 長陽町 長 野 盛 房
高2289	しげあき	85.0	第三重川 (高61)	ふくあき (1級46740)	" " 高森町 今 村 吉 晴
高2290	としお	82.4	蘇 幸 (1級480)	としはな (高 1872)	" " 白水村 長 野 拾 喜
高2291	たから	85.1	光 武 (高58)	む つ み (1級46028)	" " 久木野村 今 村 四方蔵
高2292	よしみ	83.1	福 竜 (高57)	よしえい (1級21073)	" " 高森町 姫 野 一 善
高2293	みつもり	80.5	福 竜 (高57)	ひさざくら (1級12346)	" " 白水村 後 藤 豊 一
高2294	ひので	85.0	初 宝 (高62)	第一さかえ (1級48167)	" " 高森町 甲 斐 広 国
高2295	第六たから	86.9	第三蘇殖 (1級507)	た から (1級26729)	" " 白水村 梅 田 信 之
高2296	はるさかえ	82.5	重 波 (高48)	はるさかえ (1級38949)	" " 阿蘇町 上 島 茂
高2297	第二たかみ	84.7	光 花 (1級487)	た か み (1級34776)	" " 一の宮町 井 手 明 広
高2298	第二しずか	84.0	第二重川 (高53)	し ず か (高 1118)	" " 阿蘇町 島 野 武 輝
高2299	あきさかえ	81.6	光 花 (1級487)	第五とみひめ (1級25472)	" " " 森 本 雄 二
高2300	なみふく	86.2	重 波 (高48)	かわしげ (1級26961)	" " " 森 昇 一
高2301	第八あきまる	84.2	第一重川 (1級517)	第七あきまる (1級45282)	" " 一の宮町 甲 斐 久 彦
高2302	やまかぜ	85.2	光 富 (1級382)	ゆうかぜ (1級32440)	" " 産山村 井 博 明
高2303	ふじさかえ	83.5	重 波 (高48)	ふじひめ (1級25508)	" " 阿蘇町 志 賀 利 行
高2304	第六さかえ	81.4	重 宝 (高40)	第一さかえ (高 556)	" " " 加 来 又 雄
高2305	かねまる	82.3	重 宝 (高40)	うんりゅう (1級34667)	" " " 本 田 又 雄
高2306	しげふじ	80.9	重 旗 (1級209)	ふじみつ (高 521)	" " 一の宮町 井 雅 隆
高2307	ふくまる	83.7	重 宝 (高40)	とちにしき (高 612)	" " 波野村 加 藤 政 志

高等登録番号	名号	得点	血統		所有者
			父	母	
高2308	みつ	81.9	重玉 (高11)	みつまる (2級熊14745)	大分県直入郡荻町 野中村盛
高2309	第三さかえ	83.7	第三重川 (高61)	さかえ (高1242)	熊本県下益城郡小川町 中村秋雄
高2310	きくまる	85.1	光武 (高58)	こうえい (高1242)	" 鹿本郡菊鹿町 福田嘉明
高2311	とみよし	81.5	光武 (高58)	しげさち (1級48369)	" " " 古閑久
高2312	ふじ	82.5	第三重川 (高61)	たまさくら (1級42548)	" " " 横田政則
高2313	ひめ	83.2	蘇竜 (高55)	なを (1紀37519)	長崎県南高来郡布津町 橋本親徳
高2314	ひめ	81.9	第三重川 (高61)	ひめゆり (1級44812)	熊本県上益城郡益城町 岩本武士
高2315	ただみ	83.9	蘇月 (高35)	まるさかえ (1級36269)	" " " 矢部町 田上治義
高2316	みつあき	83.3	光武 (高58)	ふくみどり (高1607)	" " " 阪本義雄
高2317	あきかね	83.1	重金 (1級441)	あきこ (1級15762)	" " " 田上治義
高2318	みつこ	87.3	光武 (高58)	ふじみ (1級31105)	" " " 清和村 原生金人
高2319	はつみ	83.4	菊玉 (高23)	はつこ (1級17653)	" " " 矢部町 本田清美
高2320	つる	81.8	白岩 (高52)	はま (2級熊34037)	" " " 石田喜久雄
高2321	たまつき	81.5	重月 (1級299)	たまえ (高659)	" " " 佐野幸人
高2322	ふく	85.4	重光 (高59)	たまよ (高1073)	" 菊池市 森川泰斗
高2323	しげとみ	81.7	福竜 (高57)	第三つるとみ (高1285)	" " " 中山正幸
高2324	ひさはな	83.7	久旗 (高29)	はな (1級39960)	" 阿蘇郡小国町 渋谷明德
高2325	とき	82.4	原美 (高46)	さかえ (1級29912)	" 菊池郡大津町 栗原清行
高2326	さきえい	85.3	蘇月 (高35)	きたはな (1級16870)	" " 菊陽町 堀川正範
高2327	ふたみ	81.8	蘇殖 (高56)	はなこ (1級36989)	" 人吉市 小川実
高2328	第三きくひめ	83.7	球泉 (1級463)	きくひめ (高993)	" " " 中村盛義
高2329	まつひめ	82.9	松房 (高60)	ゆうざり (1級47548)	" " " 高田季則
高2330	みちえ	85.0	第二球光 (高63)	としひめ (1級47338)	" " " 越替長雄
高2331	つきひめ	85.3	蘇殖 (高56)	とみこ (1級2005)	" " " 山本明年
高2332	うめ	80.4	第六蘇殖 (1級528)	さくら (高1045)	" " " 林圭一

高等登録 番号	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高2333	第二みゆき	80.3	球 泉 (1級463)	み ゆ き (1級35087)	熊本県球磨郡錦町山本与一
高2334	ひ と み	82.2	光 武 (高58)	第三むつめ (1級50075)	" " 小 田 麻 穂
高2335	第 四 ふ く ひ め	83.4	蘇 殖 (高56)	ふ く ひ め (高 785)	" " 上村 元 勇
高2336	み つ ひ め	85.2	第六蘇殖 (1級528)	ひ め (高 1605)	" " 福 山 弘
高2337	は つ	82.5	蘇 月 (高35)	は つ ひ め (高 1226)	" " 免田町奥添一善
高2338	ふ く ひ め	82.3	第二球光 (高63)	ふ く み (1級23908)	" " 多良木町川辺弘良
高2339	み つ	82.9	光 力 (高27)	ふ み (1級32965)	" " 椎 葉 和 夫
高2340	ゆ り	81.5	蘇 殖 (高56)	み ゆ き (高 1067)	" " 矢 立 一 正
高2341	さ ち	85.4	蘇 殖 (高56)	み つ め (高 870)	" " 井 上 秀 雄
高2342	まるひめ	85.5	第六蘇殖 (1級528)	な つ め (1級46393)	" " 古 関 豊
高2343	第五くるみ	81.6	蘇 竜 (高55)	く る み (高 1166)	" " 野 田 久 幸
高2344	み つ こ	80.4	球 宝 (1級416)	さ ち (1級 5499)	" " 水上村須猛臣
高2345	や え	80.7	重 春 (1級447)	み つ え い (本 8708)	" " 須惠村山憲文
高2346	第 四 ふ く	85.0	第六蘇殖 (1級528)	は つ よ (1級34086)	" " 高 田 学
高2347	は る ひ め	82.3	竜 浦 (高19)	ふ く ひ め (1級22772)	" " 下 原 吉 雄
高2348	第 二 た か み つ	82.7	蘇 月 (高35)	た か み つ (1級43032)	" " 深田村尾 治
高2349	ひめさくら	84.7	白 岩 (高52)	は つ さ く ら (2級熊26326)	" " 岩 永 常 則
高2350	たまひかり	83.6	蘇 月 (高35)	く ま ひ め (1級25052)	" " 相良村永尾待男
高2351	や よ い	82.2	第六蘇殖 (1級528)	第五さかえ (1級37037)	" " 朝 倉 信 助
高2352	み つ	80.6	球 光 (高26)	は な (高 990)	" " 米 田 正 男
高2353	よししめ	83.0	蘇 殖 (高56)	お し ど り (高 303)	" " 山江村吉田九十己
高2354	は る み	81.7	第六蘇殖 (1級528)	は つ ひ め (高 716)	" " 高 畠 良 秋
高2355	第 二 ふ く ひ め	81.4	蘇 月 (高35)	ふ く ひ め (1級20337)	" " 上 杉 武 敏
高2356	ふ く	84.3	桜 光 (1級377)	う め (2級熊15198)	" " 球磨村久保重勝
高2357	き く ひ め	85.4	蘇 殖 (高56)	き く (高 2159)	" " 中 山 安 美

高等登録番号	名号	得点	血統		所有者
			父	母	
高2358	さつき	85.1	蘇竜 (高55)	はつひめ (高 645)	熊本県球磨郡球磨村中山 安美
高2359	はるみ	82.0	蘇月 (高35)	はまみつ (1級11899)	" 芦北郡芦北町中村 智勝
高2360	ななみ	83.2	第六蘇殖 (1級528)	すずな (高 1348)	" 球磨郡錦町赤池 美和
高2361	ぼたん	80.8	蘇竜 (高55)	きく (高 827)	" " 相良村田口 道夫
高2362	第二やすこ	86.4	波玉 (1級491)	第四いちこ (1級37121)	秋田県北秋田郡鷹巣町長谷川 伊久雄
高2363	かちえ	87.3	春玉 (高44)	かねひめ (1級37525)	" " 小坂 吉三
高2364	ふじこ	86.7	重明 (1級531)	ふじひめ (1級40930)	" " 島山 俊三
高2365	ふじみ	86.1	春玉 (高44)	ふじこ (2級秋2666)	" " 森吉町佐藤 誠行
高2366	第一はなさくら	84.5	蘇月 (高35)	はなさくら (1級45544)	熊本県鹿本郡菊鹿町富田 聖輝
高2367	そきく	83.0	蘇月 (高35)	きくこ (高 1173)	" " 植木町中 三男
高2368	第三ふくはな	82.1	光武 (高58)	第二ふくはな (1級48244)	" " 菊鹿町丸山 哲郎
高2369	みはる	82.5	蘇月 (高35)	はやなみ (1級28602)	" " 浦島 明雄
高2370	ひろみ	82.5	国盛 (高33)	ふじ (高 834)	" " 鹿本町垂水 尚登
高2371	よしたけ	85.1	光武 (高58)	まるよし (1級19501)	" 下益城郡小川町中 功
高2372	つるひめ	88.0	弦重 (高54)	はたさかえ (高 1466)	" " 松橋町桑山 不比夫
高2373	ゆみこ	86.4	蘇幸 (1級480)	ゆみ (高 2187)	" 阿蘇郡蘇陽町甲斐 利徳
高2374	第五ふくまる	82.2	初宝 (高62)	ふくまる (高 933)	" " 高森町三森 義高
高2375	さかえ	83.3	光武 (高58)	ゆき (1級44583)	" " 田上 幸人
高2376	第一ふく	80.6	第二福花 (1級465)	ふく (1級48482)	" " 白水村藤本 一行
高2377	第三うめ	83.1	第三重川 (高61)	うめ (高 1182)	" " 上田 清隆
高2378	みつしげ	83.3	光武 (高58)	しげとみ (1級33656)	" " 高森町荒牧 末男
高2379	さくら	84.2	房春 (1級443)	はなこ (1級31053)	" " 白水村田上 甚人
高2380	ふじひめ	82.8	重波 (高48)	ふく (1級39094)	" " 西原村坂本 竹雄
高2381	もくより	82.7	福花 (高31)	もくせい (1級 7740)	" " 蘇陽町山口 牧人
高2382	とみあき	82.7	蘇竜 (高55)	とみはま (1級14521)	" " 高森町野尻 典歳

高等登録 番号	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高2383	ふ み	83.2	蘇 重 (1級466)	ふみはな (1級31785)	熊本県阿蘇郡高森町 後藤 力 男
高2384	と み 一	81.2	重 福 (高47)	と み (1級35522)	" " 桐 原 正 未
高2385	そりゆう	83.1	蘇 竜 (高55)	にしき (1級33641)	" " " 上 由 成
高2386	す み れ	85.8	第一重川 (1級517)	としはな (1級 8717)	" " 阿蘇町 森 田 末 次
高2387	第五さかえ	85.3	重 富 (高64)	第一さかえ (2級熊14318)	" " " 帆 代 勝
高2388	しげふく四	84.0	第一重川 (1級517)	しげふく (高 1079)	" " " 村 田 昭 治
高2389	第三さかえ	81.2	第三栄豊 (1級475)	てるなみ (1級16401)	" " 波野村 古 沢 孝 行
高2390	は つ ひ	83.7	第一重川 (1級517)	第二いずみ (1級18292)	" " 阿蘇町 菅 敏 德
高2391	第 二 つるふじ	84.6	第二重房 (1級 483)	つるふじ (1級10503)	" " " 宮 川 暎 一
高2392	さ く ら	83.6	光 花 (1級 487)	ひめやま (1級21383)	" " 一の宮町 後藤 勝 美
高2393	第一みどり	83.2	第二重房 (1級 483)	みどり (2級熊26668)	" " " 市 原 定 義
高2394	しずさかえ	82.3	第 四 栄 (1級 383)	たつきかえ (高 1594)	" " " 坂 口 静 代
高2395	す み れ	84.8	重 富 (高64)	しげひめ (高 843)	" " " 塚 本 勲
高2396	ほうえい	81.4	第二重川 (高53)	ふ く (1級20438)	" " " 小 代 義 親
高2397	みつまる	85.1	光 富 (1級382)	はつひめ (2級熊17424)	大分県直入郡久住町 佐藤 祥 司
高2398	ひのまる	80.8	第二栄豊 (1級254)	きくみつ (2級熊26491)	熊本県阿蘇郡阿蘇町 下原 信 男
高2399	ふさひめ	80.3	重 梅 (1級301)	はやぶさ (1級 849)	大分県直入郡荻町 田平 久 雄
高2400	さ か え	81.2	第二栄豊 (1級254)	さ か え (1級23604)	熊本県阿蘇郡阿蘇町 井 福 男
高2401	さ か え	85.4	信 春 (1級369)	第三しげさかえ (1級49497)	" " " 前 田 功
高2402	まるなみ	84.1	重 波 (高48)	ますみ (1級39185)	" 菊池市 中川 和 雄
高2403	第五ゆき	82.4	第三蘇殖 (1級507)	ゆきこ (高 1283)	" " 永 田 勝 行
高2404	第一いみる	82.7	重 福 (高47)	第七いみる (1級40048)	" " "
高2405	な つ こ	81.1	菊 栄 (高41)	さくら (2級熊29947)	" " 川 上 宗 弘
高2406	は や ま	82.9	重 光 (高59)	ふくえい (1級10961)	" 菊池郡泗水町 大林 実
高2407	は な こ	84.3	重 光 (高59)	たまよ (高 1073)	" 菊池市 藤 本 久 雄

高等登録 番 号	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高2408	ふくはま	81.1	重 光 (1級360)	とみはま (1級16421)	長崎県下県郡美津島町 根 倶 和
高2409	ふ じ	80.5	第三蘇殖 (1級507)	しらゆき (1級41139)	" 上県郡峰町 八 代 代 吉
高2410	あ き こ	80.7	光 武 (高58)	とよたか (1級19324)	熊本県山鹿市 杉 本 至 徳
高2411	く に み つ	83.9	国 盛 (高33)	の ふ (1級34923)	" 上益城郡矢部町 梅 田 司
高2412	ま つ え	84.4	第 四 栄 (1級383)	ま さ る (高 1160)	" " " 柴 田 武 人
高2413	さ ゆ り	80.3	蘇 月 (高35)	ひささかえ (1級 5426)	" " " 本 藤 久 彦
高2414	第一しげこ	84.3	第一重川 (1級517)	第五しらゆり (高 2072)	" 菊池郡大津町 中 野 信 登
高2415	第九さかえ	83.1	白 岩 (高52)	さ か え (1級 7904)	" " " 永 田 彦 助
高2416	は つ み	85.1	第六蘇殖 (1級528)	さ か え (1級45120)	" 阿蘇郡小国町 原 山 寅 雄
高2417	そ や ま	82.2	蘇 球 (1級520)	のりやま (1級28141)	" " " 梅 木 繁 喜
高2418	第二さかえ	85.3	第六蘇殖 (1級528)	さ か え (1級34982)	" 人吉市 宮 田 広 士
高2419	は な み	84.6	松 房 (高60)	み は る (高 1144)	" " 田 山 安 則
高2420	は る ひ め	85.2	蘇 殖 (高56)	しげたま (高 1302)	" " 東 正 守
高2421	さちひめ	83.6	第二球光 (高63)	さ ち こ (高 1254)	" " 東 卯 貞
高2422	は る	84.0	蘇 竜 (高55)	ふ え る (1級34536)	" " 向 岩 二 男
高2423	ふくはな	83.1	第六蘇殖 (1級528)	そよかね (1級42906)	" " 山 上 茂
高2424	まさひめ	83.7	蘇 殖 (高56)	ま さ こ (1級23861)	" " 原 田 雅 次
高2425	ふ く み	81.2	第二球光 (高63)	は つ め (1級48694)	" 球磨郡錦町 平 橋 隆 之
高2426	は る き く	82.1	蘇 殖 (高56)	は る (1級37762)	" " " 尾 方 幸 治
高2427	かねひめ	81.7	蘇 殖 (高56)	あかね (1級35268)	" " " 豊 永 文 二
高2428	第 十 一 ひ か り	82.8	蘇 殖 (高56)	えいふく (高 139)	" " " 藤 本 孝 幸
高2429	まりひめ	82.2	松 房 (高60)	ともひめ (高 1066)	" " " 中 村 富 男
高2430	とよふく	83.5	第六蘇殖 (1級528)	みつたみ (1級27201)	" " " 谷 山 茂
高2431	う め	80.3	球 泉 (1級463)	み つ め (1級23895)	" " " 守 屋 芳 勝
高2432	さ か え	80.3	蘇 殖 (高56)	さ つ き (1級24020)	" " 多良木町 大 神 武 夫

高等登録番号	名号	得点	血統		所有者
			父	母	
高2433	ふくひめ	84.4	光武 (高58)	はつうら (高667)	熊本県球磨郡多良木町 岩下 憲 幸
高2434	第七 しらぎく	80.4	蘇殖 (高56)	しらぎく (高784)	" " " 福屋 勝 喜
高2435	ともこ	83.1	第二球光 (高63)	はつふく (高1483)	湯前町 土屋正秋
高2436	むつひめ	82.4	第三竜月 (1級304)	つきひめ (1級16619)	" " 湯前町 椎 葉 永 重
高2437	みどり	84.2	蘇電 (高55)	あき (高1107)	湯前町 岩野寅男
高2438	ふくはな	85.0	松房 (高60)	ふくみ (高1478)	" " " 清藤 次 昭
高2439	なぎさ	83.5	球泉 (1級463)	しろぎく (高1255)	" " 須恵村 浜田 武 保
高2440	さくら	84.3	蘇殖 (高56)	きくとよ (1級19417)	" " " 下原 吉 雄
高2441	きく	81.0	蘇殖 (高56)	きくしろ (1級44214)	" " " 浜崎 保 馬
高2442	なつ	82.2	蘇殖 (高56)	ひさ (1級39634)	" " " 恒松 鶴 男
高2443	第二いみる	85.7	蘇殖 (高56)	いみる (1級31921)	" " 深田村 高田 正 臣
高2444	ひめやま	81.9	久旗 (高29)	まるやま (1級33582)	" " 相良村 山口 徳 雄
高2445	はなさかえ	83.6	蘇殖 (高56)	はな (高1381)	" " " 新島 直 在
高2446	みつはる	85.0	光武 (高58)	第三はるみ (1級25941)	" " " 西 弥九郎
高2447	さつき	82.1	蘇殖 (高56)	たかみ (1級20115)	" " 山江村 白坂 幸 見
高2448	第三はつみ	81.2	蘇殖 (高56)	はつみ (1級24965)	" " " 田口 清 隆
高2449	きく	82.8	秋光 (1級375)	さちいわ (1級41530)	" " " 三宅 正 己
高2450	たつみ	81.5	蘇月 (高35)	たつひめ (1級15271)	" " 球磨村 岡 重 見
高2451	第二 ふくはな	81.1	竜明 (高39)	ふくはな (1級18358)	" " 錦町 木 崎 恵美子
高2452	あきくさ	83.7	竜明 (高39)	よしはな (1級5830)	" 鹿本郡鹿北町 野 中 幸次郎
高2453	第二 はつまる	83.2	重波 (高48)	しげふく (1級39203)	" 菊池市 上谷 貞 夫
高2454	きくさかえ	82.8	菊一 (高42)	たかまる (1級19579)	" " 笹本 哲 朗
高2455	まつひめ	84.1	第二重川 (高53)	しげまる (2級熊34746)	" " 緒方 一 人
高2456	さちよ	82.9	光武 (高58)	さちこ (高1527)	" 下益城郡中央町 富田 光 成
高2457	たけみ	84.4	光武 (高58)	つるひさ (高1198)	" " 松橋町 佐々木 新 二

高等登録番号	名号	得点	血統		所有者
			父	母	
高2458	まささかえ	85.1	重 栄 (1級346)	まささかえ (1級23471)	熊本県阿蘇郡白木村 荒 牧 孝 憲
高2459	みつたま	85.4	光 武 (高58)	すずらん (高 927)	" " 西原村 柿 田 和 正
高2460	あ さ	85.3	第三重川 (高61)	あ さ (1級33756)	" " 白木村 中 川 勝 幸
高2461	ふ じ み	86.1	初 宝 (高62)	第一よぎり (1級44794)	" " 蘇陽町 有 働 福 男
高2462	て つ よ	87.0	第三重川 (高61)	ふ く (1級38614)	" " 久木野村 荒 牧 健 吾
高2463	ふくつる	87.1	光 武 (高58)	つるみ二 (1級12320)	" " " " 今 村 一 雄
高2464	や す	85.9	光 武 (高58)	第五ちどり (1級44669)	" " 高森町 住 吉 保 義
高2465	たかやま	84.7	第三蘇殖 (1級507)	やまなみ (高 1315)	" " " " 戸 高 ち え
高2466	第十やぐも	82.3	福 竜 (高57)	第九やぐも (1級51136)	" " 白木村 中 川 徳一郎
高2467	ちよふく	82.1	福 竜 (高57)	ちよみ (1級30025)	" " 高森町 鶴 林 豊 成
高2468	の り こ	83.4	第三蘇殖 (1級507)	のりとみ (1級43389)	" " " " 檜木野 泰 吉
高2469	ゆきさかえ	81.2	初 宝 (高62)	ゆきはる (高 897)	" " 白木村 小 林 盛 雄
高2470	第四たから	83.1	福 竜 (高57)	た から (高 1324)	" " 高森町 本 田 健 一
高2471	さ か え	80.8	光 武 (高58)	すいせん (1級24439)	" 菊池郡大津町 錦 野 徳 俊
高2472	第 四 ふくまる	83.5	光 武 (高58)	ほまれ (1級18806)	" 阿蘇郡高森町 阿 南 和 明
高2473	くさはま	81.5	草 光 (1級389)	はまみつ (本 8288)	" " 長陽村 村 上 宣 彦
高2474	ふ じ	81.2	重 福 (高47)	ふじあき (1級22401)	" " 久木野村 今 村 春 一
高2475	ひろはな	81.0	福 花 (高31)	はるよ (1級15988)	" " 高森町 本 田 健 一
高2476	はつよし	81.0	蘇 竜 (高55)	はつえい (予熊41530)	" " " " 吉良山 暎 伴
高2477	第 一 くすしげ	81.2	重 福 (高47)	くすしげ (1級30066)	" " " " 佐 伯 定 徳
高2478	なかよし	81.5	重 福 (高47)	ふくはな (1級29000)	" " " " 竹 内 辰 三
高2479	第八おうや	83.3	第二竜明 (高49)	第五おうや (高 247)	" " 白木村 宇 藤 忠 勇
高2480	きくはな	86.2	光 花 (1級487)	はつはな (1級42628)	" " 阿蘇町 井 幸 男
高2481	第二さかえ	84.2	第一重川 (1級517)	さかえ (1級42688)	" " 一の宮町 塚 本 学
高2482	第 五 たつはな	82.7	第一重川 (1級517)	たつはな (1級26973)	" " 阿蘇町 村 上 邦 雄

高等登録番号	名号	得点	血統		所有者
			父	母	
高2483	たかひめ	82.0	第二重房 (1級483)	ふくたま (1級46125)	大分県直入郡荻町 赤峰 たか子
高2484	ひめゆり	81.5	竜明 (高39)	みやさかえ (高 396)	熊本県阿蘇郡阿蘇町 永尾 哲志
高2485	ふくはな	83.1	重宝 (高39)	たけはま (1級17376)	" " " 梅井光一



◎ あか牛子牛市況

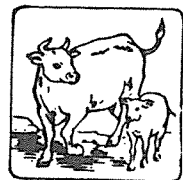
(60年10月～61年3月)

県別	開催年月日	市場名	性別	頭数	最高価格	最低価格	平均価格		
					円/kg当り	円/kg当り	円/kg当り		
北海道	60 10. 14 { 18	道	6未 カ満 月	めす	25	978	870	944	
				おす	33	987	877	967	
				去勢	12	1,009	922	988	
		南	6カ 月 12	めす	181	966	737	955	
				おす	77	1,015	900	964	
				去勢	186	1,050	860	986	
	道	11. 20	道	6未 カ満 月	めす	13	878	825	873
					おす	5	976	816	911
南			6カ 月 12	めす	74	901	716	856	
				おす	40	931	914	918	
去勢	63	950	810	940					
秋田県	60 8. 23	阿仁合	めす	5	335,000	201,000	293,600		
			おす	1	500,000	500,000	500,000		
			去勢	11	350,000	171,000	264,636		
	8. 24	北秋田	めす	76	444,000	147,000	282,276		
			おす	1	262,000	262,000	262,000		
			去勢	99	395,000	195,000	315,000		
	8. 25	二ッ井	めす	63	353,000	191,000	265,048		
			去勢	64	347,000	200,000	288,343		
	8. 30	県中央	めす	7	257,000	138,000	201,000		
			去勢	6	303,000	140,000	242,700		
	10. 21	能代	めす	56	388,000	205,000	264,750		
			去勢	71	361,000	220,000	302,676		
	10. 22	阿仁合	めす	40	310,000	134,000	218,950		
			おす	25	276,000	155,000	214,800		
去勢			20	375,000	195,000	277,450			
10. 23	前田	めす	24	340,000	165,000	249,042			
		おす	14	291,000	147,000	206,929			
		去勢	14	412,000	220,000	334,000			
10. 24	北秋田	めす	73	400,000	154,000	280,548			
		おす	3	210,000	116,000	156,667			
		去勢	77	374,000	133,000	319,571			
10. 27	鹿角	めす	24	291,000	121,000	200,042			
		おす	18	309,000	171,000	232,889			
		去勢	9	398,000	250,000	313,333			

秋 田 県	11. 12	県中央	めす 去勢	1 1	344,000 370,000	344,000 370,000	344,000 370,000	
	12. 13	能代	めす 去勢	55 51	407,000 365,000	170,000 197,000	280,855 304,412	
	12. 14	阿仁合	めす おす 去勢	9 1 3	274,000 227,000 761,000	188,000 227,000 270,000	219,444 227,000 231,000	
	12. 15	北秋田	めす 去勢	60 69	711,000 392,000	161,000 192,000	278,417 337,377	
長 崎 県	9. 12	島原	めす おす 去勢	87 2 53	401,000 307,000 360,000	139,000 132,000 132,000	232,287 219,500 268,754	
	11. 6	対馬	めす おす 去勢	76 2 85	299,000 372,000 368,000	66,000 102,000 84,000	220,381 237,000 267,211	
	11. 12	島原	めす おす 去勢	69 2 72	456,000 231,000 350,000	125,000 178,000 130,000	263,217 204,500 279,430	
熊 本 県	60 10. 4 6	高森	めす おす 去勢	400 9 554	701,000 504,000 406,000	72,000 73,000 110,000	275,260 272,000 296,301	
	10. 9		小国	めす おす 去勢	128 2 136	387,000 10,000 370,000	155,000 10,000 126,000	231,075 10,000 277,911
	17 10. 18			球磨	めす おす 去勢	391 2 468	1,311,000 510,000 384,000	114,000 300,000 150,000
	7 11. 8	山鹿	めす おす 去勢	175 1 229	730,000 272,000 369,000	166,000 272,000 172,000	275,988 272,000 281,351	
	9 11. 10		菊池	めす おす 去勢	240 3 244	861,000 500,000 336,000	127,000 230,000 161,000	260,966 400,000 286,885
	11. 11	大津	めす おす 去勢	132 1 148	880,000 500,000 350,000	102,000 500,000 175,000	257,886 500,000 287,919	
	17 11. 19		阿蘇	めす おす 去勢	467 3 587	805,000 414,000 438,000	137,000 336,000 128,000	274,102 368,000 321,860
	20 11. 21	矢部	めす おす 去勢	256 2 286	750,000 610,000 360,000	95,000 400,000 100,000	245,156 505,000 288,948	

熊	12. 2	上益城	めす おす 去勢	74 4 74	348,000 312,000 370,000	175,000 260,000 184,000	254,774 281,500 289,594
	12. 3	下益城	めす おす 去勢	131 1 149	900,000 265,000 385,000	151,000 265,000 181,000	304,740 265,000 312,389
	4 12. } 6	高 森	めす おす 去勢	480 4 529	1,240,000 510,000 407,000	103,000 231,000 141,000	264,590 364,000 309,599
	12. 9	小 国	めす おす 去勢	102 8 126	374,000 314,000 367,000	147,000 39,000 101,000	221,500 222,125 288,341
	17 12. } 18	球 磨	めす おす 去勢	462 5 493	960,000 511,000 389,000	122,000 228,000 186,000	295,273 382,400 312,077
	61 1. } 19	阿 蘇	めす おす 去勢	423 6 506	553,000 602,000 406,000	161,000 262,000 127,000	293,938 357,500 333,501
	4 2. } 6	高 森	めす おす 去勢	347 2 450	716,000 333,000 397,000	70,000 295,000 161,000	262,752 314,000 313,624
	2. 9	小 国	めす おす 去勢	81 2 115	414,000 214,000 365,000	177,000 175,000 177,000	238,185 194,500 292,026
	2. 11	大 津	めす おす 去勢	126 2 133	680,000 450,000 365,000	106,000 204,000 223,000	284,071 327,000 306,165
	12 2. } 13	菊 池	めす 去勢	261 236	1,000,000 381,000	100,000 220,000	285,874 309,889
	14 2. } 15	山 鹿	めす 去勢	200 174	830,000 390,000	156,000 214,000	295,650 315,983
	18 2. } 19	矢 部	めす おす 去勢	282 2 373	700,000 420,000 385,000	158,000 315,000 200,000	276,195 367,500 310,611
25 2. } 27	球 磨	めす おす 去勢	475 5 551	1,442,000 431,000 376,000	63,000 258,000 194,000	297,440 326,600 301,911	
3. 2	上益城	めす おす 去勢	55 5 58	580,000 301,000 370,000	194,000 250,000 278,000	269,690 280,000 306,189	
本	県						

熊 本 県	3 . 3	下益城	めす	129	1,220,000	117,000	318,535
			おす	2	530,000	470,000	500,000
			去勢	162	416,000	212,000	319,019
	3 . 3 17 19	阿 蘇	めす	441	975,000	190,000	296,832
			おす	5	438,000	250,000	342,200
			去勢	532	434,000	146,000	338,953



◎ 牛肉消費行動影響要因分析（本誌P2以降参照）

あか牛の牛肉の購入経験

（単位：人、％）

	あ	る	わからない	な	い	合	計
九	州	22 (61.1)	7 (19.4)	7 (19.4)		36 (21.1)	
関	東	28 (20.7)	73 (54.1)	34 (25.2)		135 (78.9)	
合	計	50 (29.2)	80 (46.8)	41 (24.0)		171(100.0)	
20	歳	代	5 (25.0)	12 (60.0)	3 (15.0)		20 (11.8)
30	歳	代	13 (23.2)	31 (55.4)	12 (21.4)		56 (32.9)
40	歳	代	14 (31.8)	18 (40.9)	12 (27.3)		44 (25.9)
50	歳	代	12 (40.0)	13 (43.3)	5 (16.7)		30 (17.6)
60	歳	以上	6 (30.0)	5 (25.0)	9 (45.0)		20 (11.8)
合	計	50 (29.4)	79 (46.5)	41 (24.1)		170(100.0)	

注：左は実数、()内は行の構成比を示す。

地区別のカイ2乗値=23.52、有意率=0.01%、

年齢階層別のカイ2乗値=11.52、有意率=17.39%。

あか牛の牛肉の味に対する意向

（単位：人、％）

	おいしい	普	通	おいしくない	合	計
九	州	18 (81.8)	4 (18.2)	0 (0.0)	22 (44.0)	
関	東	14 (50.0)	13 (46.4)	1 (3.6)	28 (56.0)	
合	計	32 (64.0)	17 (34.0)	1 (2.0)	50(100.0)	
20	歳	代	3 (60.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	5 (10.0)
30	歳	代	10 (76.9)	3 (23.1)	0 (0.0)	13 (26.0)
40	歳	代	6 (42.9)	7 (50.0)	1 (7.1)	14 (28.0)
50	歳	代	9 (75.0)	3 (25.0)	0 (0.0)	12 (24.0)
60	歳	以上	4 (66.7)	2 (33.3)	0 (0.0)	6 (12.0)
合	計	32 (64.0)	17 (34.0)	1 (2.0)	50(100.0)	

注：左は実数、()内は行の構成比を示す。

地区別のカイ2乗値=5.63、有意率=6.0%、

年齢階層別のカイ2乗値=5.98、有意率=64.9%。

第 56 号

昭和 61 年 3 月 25 日 印刷

昭和 61 年 3 月 31 日 発行

編 集 川 崎 広 通

印 刷 者

村 嶋 農 志 郎

発 行 所 日本あか牛登録協会

印 刷 所

村 嶋 印 刷

熊本市草葉町 1 - 21
畜産会館内

振替 熊本1510

TEL (096) 356 - 7597

熊本市小山町 4 2 3

TEL (380) 7 0 9 5

〒860

〒861-22